

池田ものがたり



池田町教育委員会

池田ものがたり



浅原六朗文学記念館



交流センター「かえで」



池田町立美術館



創造館

池田町教育委員会

はじめに

わたしたちのふるさと池田町は、豊かな自然に囲まれ、たくさんの文化財や歴史遺産が、現在まで人々によって大切にされてきました。そして、日々、新たな営みが繰り広げられています。池田町に人が住み始めてからおよそ8000年が経ちます。

わたしたちの今日の生活は、この地に暮らし続けた先人の努力や知恵によって築かれた社会の上に成り立っています。この長い歴史の中、私たちの祖先は、与えられた自然条件の中で生きていくために、森や川、平地などを工夫しながら活用してきました。災害に出あったり困ったりした時には助け合い、協力してがんばってきました。そして、今のような池田町を創り上げてきました。

このような人々の生活や環境などを今日に伝えるために『池田町誌』が発刊されました。本書『池田ものがたり』は、この中から学校の学習として使える内容を参考にしたり、編集委員の方々に資料収集などをしていただいたりして編集してあります。

教育委員会では、多くのみなさんが、本書を通して、町の自然や歴史、今取り組んでいることについて興味を持ち、語り合い、深く学ぶきっかけとなり、やがては、美しい町を守り、先人の残したものを大切に作る心を育ててほしいと願っています。そして、みなさんが未来を切り拓き、様々な面で協力し助け合って、笑顔輝く町になるようにしてほしいですし、よりよい町づくりに参画してほしいと願っています。

第2版に少し付け加えて第3版を発行しました。一人ひとりが日々の学習に役立てたり、家族で読んだりして活用していただければと思います。

令和2年3月 池田町教育委員会

目 次

はじめに

自 然

1	人々は里山を大事にしました	2
2	時代が進み自然環境はどうか変わったでしょう	3
3	豊かな生き物の世界を取り戻すために どうすればよいでしょうか	7
4	池田町の地形	8
5	歩いてみたいな町の道	13
6	北アルプスの山々	16

歴 史

1	池田町に人びとが暮らしはじめたのは いつごろだろう	20
2	国ができ、きまりができたころの池田のようすは どうだったのだろう	21
3	江戸時代の池田町はどのようなであったのだろう	22
4	明治以降、池田はどのようにかわったのだろう	28
5	池田町にのこる主な文化を知ろう	37

町民が安心して住める町

1	地域のとりくみ	48
2	交通・防犯へのとりくみ	52
3	みんなが健康でしあわせにくらせるとりくみ	53
4	みんなで育てよう地域の子ども — 0歳から18歳 —	58
5	小学校・中学校の生活	60
6	地域に根ざした高校	64
7	新しく開かれた専門学校	66
8	地域とのつながり	67
9	協働のまちづくり	69
10	男女共同参画社会をめざして	70
11	みなさんの力で池田町の未来を育てましょう	71
	おわりに	74

年 表

- 一 本書は、池田町の自然や歴史、今の様子など、小学校高学年から読めるようにして、語り継ぐものです。
- 一 本書は池田町の地域の^{はん い}範囲を目標とするものですが、^{かんれん}関連する^{きんりん}近隣の地域を含むものもあります。
- 一 本書の内容は、池田町の自然や歴史、現在の^{とくちょう}特徴がでるように考えました。
- 一 本書の資料は、過去に^{はっかん}発刊されている『池田町誌』をもとに、文化財などで見つけられたものをふまえています。
- 一 文章・用語等については、次のことなどに気をつけました。
 - 1 それぞれの時代ごとに使われていた言葉などは、そのまま本文に使用した。
 - 2 本文に書かれることは、できるだけ^{じょうよう}常用漢字・^{げんだい か な}現代仮名づかいを用いるようにしましたが、やむをえず用いたむずかしい用語・地名などにはルビ（ふりがな）をつけて読みやすくしました。
 - 3 人名の^{けいしょう}敬称（様・さん・殿など）は特別の場合を除き、すべて^{のぞ}省^{しょうりやく}略しました。
 - 4 文書等の^{いんよう}引用資料は、^{しょぞうしゃ}所蔵者名を^{めい き}明記するようにしました。

自 然



内鎌から水田に映える有明山

「アルプスをさかさにみせる水田かな」水田に^は映える北アルプスの姿は、自然が^{えが}描く美しさをわたしたちに伝えてくれます。池田から見た北アルプスは、四季それぞれに姿をかえてわたしたちにせまってきます。西山に「種^{たね}まき^{じい}爺さん」（雪形）が姿をあらわす頃、町の田畑も活気づきます。平地と段^{だん}丘^{きゅう}は、春夏秋冬に西と東の山々が美しく変化します。小鳥や少なくなった昆虫も四季の変化に応じて飛^ひ来^{らい}し、わたしたちの心をなぐさめてくれます。

近年、池田町の美しい自然をもとめて県外からも絵を描いたり歩いたりする人が増えてきました。

わたしたちも自分の住んでいる町の美しさをしっかりと胸に^{きざ}刻みましょう。

1 人々は^{さとやま}里山を大事にしました

いろいろな生き物の話が時々テレビや新聞などで取り上げられています。

むかしの池田町は自然が豊かで、いろいろな動物や植物が見られましたが、時代の^{しんぽ}進歩とともにずいぶん変わりました。

1937年(昭和12)頃の池田町は農家が大部分で^{だんぼう}暖房と食事の^{に た}煮炊きは^{まさ}薪と炭を使っていました。池田町は東に山を^{せ お}背負っているので、村人たちは山にある木を^た焚き物にしたり草は馬の^{えさ}餌にして使っていました。

山には松・杉・ナラ・クヌギなどが^う植わっていました。また林の中や山道や空き地には草が生えていました。

お^{ぼん}盆にののさま(^{ぶつだん}仏壇)に飾る花、キキョウ・オミナエシは、昔から盆花といって人とのつながりの深かった花ですが、現在は^た絶えてしまって野山では見ることができません。



盆花 オミナエシ



キキョウ

秋になると高瀬川の松林や東山ではキノコを^と採ることができました。また^{まつば}松葉集めをして^た焚き付け(火を付ける^{もと}元になるもの)にしました。学校で使うストーブの焚き付けは子どもたちが家から^よ持ち寄りました。

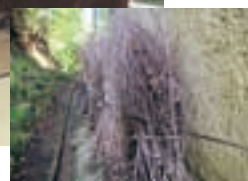
冬になると山に生えている^{ぞうき}雑木を切って炭を焼き、こたつに入れて^{だん}暖をとったり、家や風呂で^{たきもの}焚く焚物にしたりしたのです。

どこの家にも^{いろり}囲炉裏(火を焚く所)があって^{だん}暖をとったり^{にもの}煮物をしたり、むすび・やきもちを焼いたりして、^{だんらん}囲炉裏は一家団欒(みんなで楽しむ)のより所でした。山は人々の暮らしにとって大事な宝の山だったのです。

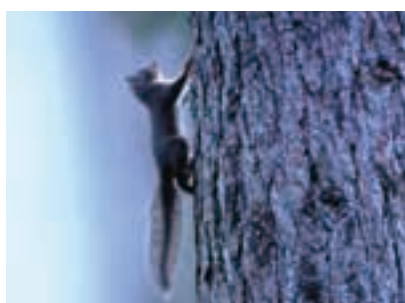


囲炉裏

背後のきじらには薪が置かれている



囲炉裏で焚くぼや(薪)



木に登るニホンリス



山の花 レンゲツツジ



シュンラン

2 時代が進み自然環境はどうか変わったでしょう

山に土地を持つ人たちは十分手入れをしていたのできれいな山でした。

戦後(昭和20年後)の世の中になると、人々の生活もずっと便利になりました。やがて、暖房をとるのに石油ストーブを使い、物の煮炊きはガスが利用され、薪や炭はいらなくなり山の掃除にも手が入らなくなりました。その結果、木や草は伸び放題になり、山は荒れてしまいました。広津・陸郷でかつて畑だったところは、人手が入らず、松・杉・雑木(用をなさない木)の林になってしまいました。

河原や山へ行くと必ずクズやアレチウリやカナムグラを見かけます。

クズは昭和の中ごろまでは葛粉を採って食べたり薬にしてい



立ち木にからみついたクズのつる
町中いたるところで見られる



手当たりしだいどこへでもからみつ
いて迷惑をかけるアレチウリ

ましたが、戦後になって馬鈴薯から片栗粉を取るようになり使われなくなりました。クズは勢いがよく木や草にからみついて藪になるのを見かけます。また近年になって目にするのが北アメリカ原産のアレチウリです。このつる草は戦後日本に入った植物で、川端や道端で見かけます。池田町へは犀川の岸から沢や道づたいに入ってきた草で、巻きひげを使って手当たり次第木や草にからみつくのです。これがはびこると手に負えない草になります。

明治から昭和の始めまで盛んだった池田町の製糸家(生糸を作る会社)は地元で取れた繭を使いました。蚕を飼うための桑畑はたくさんありましたが、生糸が売れなくなり製糸業はだめになりました。いらなくなった桑を抜いて普通の畑や林にした所もありますが、手付かずの桑は大木になり荒れ地になってしまいました。昭和の後半になって造成作業(畑を新しく作り替える仕事)が進み、半在家・滝の台などの住宅団地や渋田見・中鶴のぶどう畑、滝沢のソバ畑に変わりました。



桑の大木のあった荒地もきれいに
造成されりっぱな畑となっている



戦前は畑として全域が使われていた広津の山



平成になって荒れた桑畑もブドウ畑に変わった

昭和・平成に入り、家・道路・水路がずいぶん変わりました。



かやぶきの家

安曇野のものの景色は田んぼの中にぽつんと建つ茅葺屋根の家、それを囲む木、家々を結ぶ曲がりくねった道、いろいろな形をした田んぼと水路などですが、その姿がすっかり変わったのは戦後しばらく経ってからです。戦前の田んぼの畦にはヨモギ・チガヤ・ノアザミ・ワレモコウなどが生え、ところどころに草やぶや柳などがあり

多くの生き物がすんでいました。カエルを餌にするへび、水生昆虫を餌にする水鳥たち、流れの中の草や幼虫を食べるメダカ・コイ・ドジョウ・ウナギなど、子どもの遊び相手のカニやトンボもいました。そんな



ノアザミ



ヤマホタルブクロ



オキナクサ



メダカ



オイカワ



カエル



サワガニ



バン



ドジョウ



ウグイ



ヤマカガシ



ヒバリ



中島へ行く道

圃場整備前の水田

吾妻町団地

圃場整備前の水田のようす。曲がりくねった道、田んぼごとにある水路。全部かわってしまい、むかしのおもかげは見られない。



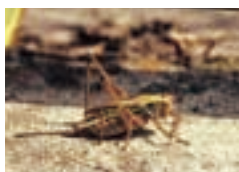
ヘリによる農薬散布



整備された内川排水路

に恵まれた豊かな場所から生き物がなぜ消えたのでしょうか。そのもとは、農業を使い、汚れた水が流れるようになって環境（生き物のすみか）が変わったからです。

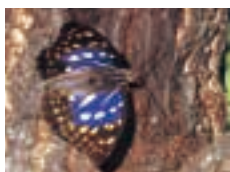
圃場整備（田の形、道路、水路を整理する）は米をたくさん獲り、農作業をやりやすくするのがねらいで、農家の人々のためには大変役立ちました。農業は生き物を死滅させましたが、研究が進み改良がされつつあります。汚れた水（家庭の雑排水・工場の排水・農業など）をきれいにするために、町では下水道や浄化センターを造り、町民全体で水のきれいな里づくりをしようと努力しています。



キリギリス



ウマオイ



オオムラサキ



カミキリムシ



カブトムシ

夏を迎えると河原や山手の草むらからは、キリギリスの賑やかな鳴き声が、夜になると家の周りからはウマオイの音が響きました、これは昭和の中頃(1955年)の話です。河原・平地にいたキリギリスは中鷄、渋田見、中島の山手へ追いやられ、やがて大峰・広津・陸郷方面のみとなりました。現在はどうでしょうか。国蝶のオオムラサキは山の麓のエノキをすみかとしていますが、土地利用の仕方によっては姿を消す心配があります。カミキリムシやカブトムシはクヌギを切られてしまうと餌がとれないのですめないでしょう。野山の草花にもいろいろなチョウや虫が飛んできます。いずれも餌とかくれるところ（草むらや林）が必要です。

「池田には今もツブ（たにし）はいるかね。むかしは池田の田んぼへ行行って獲ったもんだがね」と聞かれ「残念ですがいませんよ」が答えです。

メダカ・ホタル・ドジョウはと矢継ぎ早に聞かれるのですが、少し見られるのはホタルとドジョウくらいです。たくさんいたメダカがなぜすめないのか。その答えはメダカのすめるような川になっていないのです。流れが速く、よどみがないからです。



ゲンジボタル



タニシ

近頃「ツバメやスズメが減ったのではないか」の声もあります。ツバメについて池田市街地で1981年(昭和56)と2011年(平成23)に巣をかけてひなを育てている数を比べてみました。1981



ツバメ



カッコウ

年は戸数272戸の内、雛を育てた数は31巣で11.4%でしたが、2011年は戸数230戸の内育てた数は20巣で8.7%でした。約3%減っていますが、ツバメはたくさん目につきますので減ったようには見えません。

池田町会染で調べたツバメとカッコウの初認日一覧

年	度	ツバメ	カッコウ
2000	(平成12年)	3月31日	5月22日
2001	(平成13年)	3月27日	5月12日
2002	(平成14年)	3月19日	5月14日
2003	(平成15年)	3月31日	5月17日
2004	(平成16年)	4月5日	5月18日
2005	(平成17年)	4月6日	5月20日
2006	(平成18年)	3月25日	5月12日
2007	(平成19年)	3月30日	5月20日
2008	(平成20年)	4月5日	5月15日
2009	(平成21年)	4月4日	5月21日
2010	(平成22年)	4月6日	5月14日
2011	(平成23年)	4月16日	5月21日

ツバメが池田町に姿を見せるのは3月下旬から4月中旬ころ、カッコウは5月に入ってから渡ってきます。いずれも気候と餌にかかわりが深いのです。

特にカッコウはモズやオナガやオオヨシキリに卵を預けて自分の子を増やすので、これらの鳥が卵を産む頃をねらって来るのです。自然というのは実に不思議に仕組みられています。

ツバメとカッコウのすんでいる様子を広津・陸郷で調べてみました。昔から巣を作った家には来ていました。ツバメが来るとたいへん喜んでくれる家庭もあるのです。ツバメの帰巣率（もとの巣へ戻って来る）は高いそうです。かわいがって見てやるとツバメも安心して戻って来るのでしょう。田んぼが青田になる頃はツバメが盛んに飛びまわって餌をつかまえています。虫を取ってくれる鳥だから役に立つ鳥ということで、むかしから大事にされたのです。

グラフはツバメの一日の餌くれ回数をまとめたものです。午前10時頃と午後6時頃が多いことがわかります。運んでくる餌はなんだと思いますか。ほとんどが昆虫です。

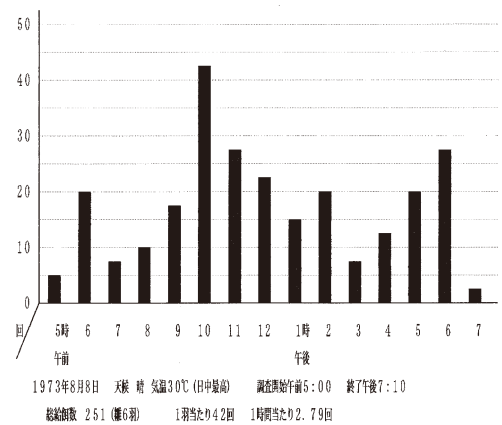
カッコウの鳴き声は平地では聞いているのに、広津では耳にすることはできませんでした。地域の人々も今年(2011年6月)はまだ聞いていないと言っていました。渡って来るカッコウが減ってしまったのでしょうか。

虫たちは自分の子どもを残すために植物の葉を食べてけんめいに生きています。

アメリカシロヒトリの幼虫は桑・くるみなどの葉を、モンシロチョウの幼虫はキャベツの葉を食べ人にきらわれています。ミツバチは蜜をためたり、木の実を実らせたりする働きをして役立っています。身近なちょっとしたことでも注意するといろいろのことが分かります。温暖化のけいこうが強く生き物の世界にも変化が見られるようになりました。自然界をしっかりと見つめると知識が広がります。

ツバメの一日のえさくれのようす

II 一日の給餌回数調査



オオムラサキの一生（卵—幼虫—さなぎ—成虫）



1・幼虫



2・幼虫 中間



3・幼虫 終期



4・さなぎ



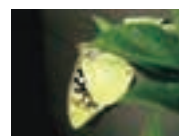
5・羽化はじまり



6・ぬけだしおわり



7・はねをのばす



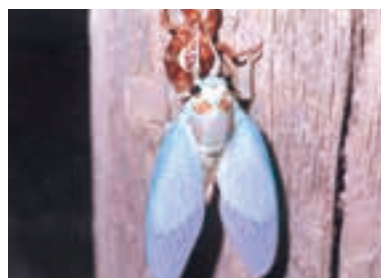
8・羽化おわる



9・かつどうはじめ



きれいな川にはえるバイカモ



アブラゼミ



花にはチョウや虫がよってくる

3 豊かな生き物の世界を取り戻すためにどうすればよいでしょうか

- (1) 大事なことは動物や植物を好きになって観察や体験をして生物の世界を知ることです。
- (2) 友達に声をかけて動物や植物の勉強をしましょう。一人でやるより二人三人でやる方が正確でよく覚えられます。
- (3) 動物がすめたり植物がはえる環境をつくりましょう。



流れにすむ生き物をとっている子どもたち

- (4) 家の周りや近くに観察園（池や花壇）を作りましょう。
 - (5) どんなことでもよいから気づいたことをメモしましょう。
 - (6) 始めたら長く続けましょう。特に自然を相手にするときはじっくり見ていくことが基本で積み重ねが大切です。
 - (7) 見るということは知るということにつながるのです。それを続けることが観察の目を高めることになるのです。
 - (8) 何か変化があればそれが分かるのは継続の力が支えてくれます。ツバメが増えたとか減ったとかはいきなり結論はくだせない場合があります。その時に継続や観察が役立つのです。
- 捕虫網を担いで飛び回る子ども。川や池に入って魚や水生昆虫を獲る子ども。山へ行って山の幸を探す子ども。そんな世界がやって来ないかと夢はふくらみます。

環境づくりには大ぜいの人々の協力が必要です。



アオハダトンボ



カワニナ



ヒゲナガトビゲラの幼虫

川ではアオハダトンボ・カワニナ・スナヤツメ・ドジョウ・トビゲラなどが見られるようになりました。きれいな流れにはいろいろな生き物がすむことができます



平地まで生息域を広げたヒヨドリ



スナヤツメとドジョウ

4 池田町の地形

高瀬川がつくった池田町の平地

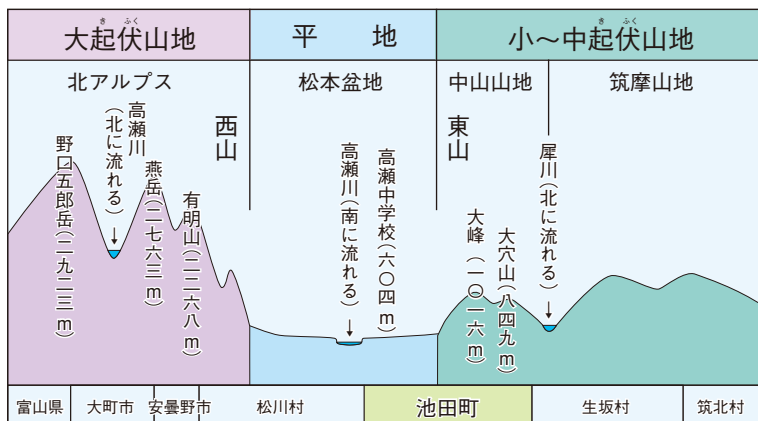
池田町の地形は大きく分けて松本盆地^{ばんち}とよばれる平地と、その東に南北に延びる中山山地に分けることができます。西方には雄大な北アルプス^{ひだ}（飛騨山脈）^{びょうぶ}が屏風のよう^{けいかん}に立ちはだかり、このすばらしい山のながめが池田町の代表的な景観になっていま



池田町を南側上空から撮影した航空斜め写真（池田町HPより）

す。北アルプスの槍ヶ岳^{やりがたけ}を源として北に流れ出した高瀬川が、大町市から向きを南に変えて平地の中央を流れ下っています。平地といっても大町から池田までの高さは100m以上もちがいます。その勾配は池田町付近で1000分の11（100mで1.1m低くなる）もあり、平地の川として

はたいへん急な流れです。池田町付近では高瀬川より西側は松川村になります。さらに南に流れる高瀬川は安曇野市明科で犀川に合流して、中山山地の東側を今度は北に向かって流れ、長野市で千曲川に合流します。千曲川は新瀉県に入ると信濃川^{しなのがわ}となって日本海に注いでいます。



池田町付近の東西方向の地形断面図（模式図）

高瀬川は北アルプス山中から松本盆地に入ると流れが緩くなり、運んできた土砂を堆積（たま）ります。川は氾濫して土砂が扇状に広がって堆積します。その形からこのような地形を扇状地^{せんじょうち}といいます。私たちの町や水田などの平地の地盤は、高瀬川が氾濫して運んできた扇状地の砂利でつくられています。水田などを深く掘ってみると今の高瀬川と全く同じ丸い玉

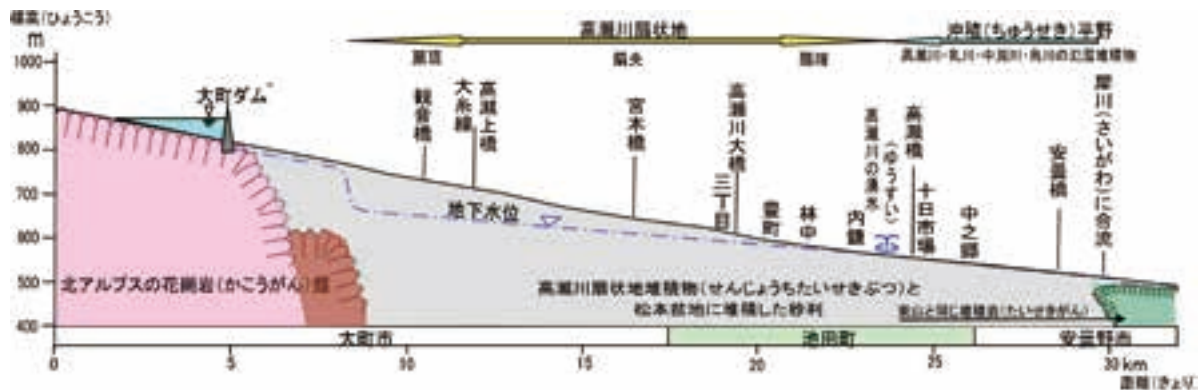


水田を掘ると高瀬川の川原と同じ砂利が現れる
（松川村の砂利採取場）

石や砂が出てきます。石は川で運ばれるときにぶつかってけずられ、丸くなります。その厚さは深いところでは400mもあるといわれています。

今の高瀬川は堤防やダムが作られて氾濫することは少なくなりましたが、以前はしばしば氾濫して大きな被害が出ました。中でも豊町の十三番堤防は江戸時代から最近まで大水のたびに幾度も切れて、その濁流が会染地区の人家や水田に大きな被害を与

えました。堤防修理のために多くの人々が働いたという記録が残っています。今はダムができて安全になりましたが、もしものことを考えて高瀬川の氾濫に対しては、ふだんから家族や学校で話し合っ、どのように避難するかなどの備えをしておく必要があります。



高瀬川の河床(かしょう)の断面図(大町～明科)

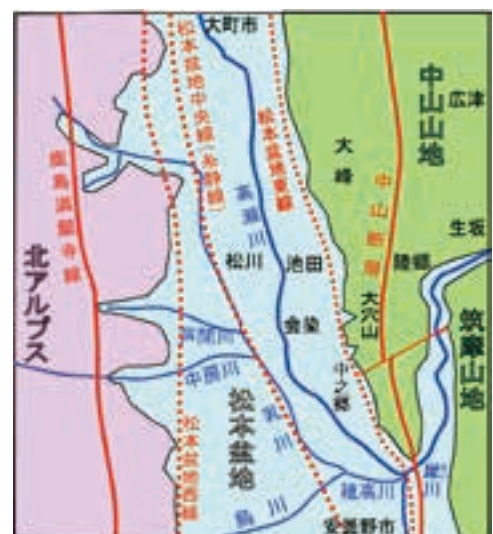
扇状地は砂利層のため、地表の水は浸透しやすく、地下水位は深いところにあります。ところが扇端(扇状地の先端)になると地下水位は浅くなり、ときには湧き水となることもあります。高瀬川扇状地の扇端は内鎌付近になります。冬になるとこの付近から下流の高瀬川では、湧き出す地下水の温度が気温より高いために“もや”が立つのが見られます。

断層によって高くなる山

もう少し細かく地形を見ると、東山(中山山地)沿いの平地と山地の境界付近の一段高い山麓部分には、平な地形やゆるやかな斜面が南北に連なり、堀之内、中島や滝沢などの多く集落があります。下の平地との境には高さ5mから20mくらいの急な段差がある場合が多く、この段差は東山山麓沿いにほぼ連続しています。かつては高瀬川によって侵食(けずられる)されてできた崖(段丘崖)といわれていましたが、今では断層によって東がわの山が上がり、できた崖(断層崖)であることがわかってきました。断層とは地面の中に大きな力が加わり、ずれることをいいます。この断層は“松本盆地東縁断層(または松本盆地東線)”と呼ばれ、これからは活動すると考えられているために活断層であるといわれています。北アルプス側も平地との境は断層になっています。平地との境の断層で山が高くなっていきます。



東山山麓に連なる断層崖



池田町付近の断層(赤色の線)

『写真が語る池田町誌』

断層がずれる時に地震が起きます。地震の時には断層の上だけでなく広い範囲で揺れます。地面がずれて地表に段差やきれつができるときは大きな地震です。東日本大震災では海底が大きくずれたため大津波が起きました。今の科学では地震を予知することはまだ難しいといわれています。地震が起きたらどうするかを家族や学校で話し合っ、日ごろの備えと身を守る訓練をしておきましょう。

東山は今でも少しずつ高くなっています。このため侵食作用が盛んで、“ままこ落し”などの断崖や“登波離橋”などの景勝地ができています。東山から高瀬川方向へ流れ込む主な沢は堀之内の花岡沢、半在家の熊ノ沢、滝沢の滝ノ沢などがあります。ふだんは水が少ないが、大雨時には水量が増えて氾濫することもあります。このため砂防えん堤などがたくさんつくられています。犀川方向に流れ込む沢には袖沢川や八代沢などがあり、これらの周辺は地すべり地帯になっています。

フォッサマグナの海だった陸郷と広津

陸郷や広津からは貝の化石を見つけることができます。もっと東の松本市四賀では鯨の化石が発見されています。日本列島はもともとアジア大陸にくっついていました。日本海に切れ目ができて徐々に開いたことにより、日本列島は大陸から離れ、逆くの字形（ひらがなのくの字の逆で、今の日本の形）に折れ曲がって骨組みがつけられました。今から1500万年も前のことです。本州中央部の折れ曲がった位置には大きな裂け目ができました。

明治の初め、日本政府に招かれ東京大学で地質学を教えたドイツ人の地質学者ナウマン博士が、この大きな裂け目を発見して“フォッサマグナ”と命名しました。裂け目はとても幅が広く、長野県から関東平野までおよんでいます。フォッサマグナの西の端を糸魚川静岡構造線といいます。ちょうど池田町を通りますが、今は高瀬川の厚い砂利に覆われていて見ることはできません。裂け目の中は海になったのですが、関東山地は島のように残っていました。フォッサマグナの海は、周囲の山地から運ばれた砂や泥によって南から北へ向かって順に埋められていきます。地球の歴史の中ではこの頃を新第三紀と呼びます。その後、日本列島は太平洋側から強く押されたため、フォッサマグナの海の軟らかい堆積物は断層や褶曲作用（地層が押しつぶされて曲がる）で盛り上がり、現在の山地になりました。



滝ノ沢によってできた見事な扇状地
(昭和55年頃撮影)『写真が語る池田町誌』



フォッサマグナと糸魚川静岡構造線

た。フォッサマグナの海の地層は中山山地の中央を南北に走る中山断層より東側の広津や陸郷に分布しています。

陸郷や広津の地質はフォッサマグナの海にたまった泥や砂でできた軟らかい泥岩や砂岩のため、風化（雨や風にさらされてもろくなる）するともとの泥や砂にもどってしまいます。このため道路や畑・人家が斜面に沿って少しずつ移動する地すべりが多く発生しています。広津の堀越や足沼、陸郷の八代沢や天崎などでは大きな地すべりがおきました。地すべりが動きだす原因は地下水が地中に貯まるからと考えられています。地すべりを止めるためにはいろいろな方法がありますが、原因を取り除くことを目的にして地下水を抜く工事がたくさん行われています。

地すべり地には水があり、土地が粘土質で作物がよく育ち、人が生活するのに適していることもあります。以前は陸郷や広津にもたくさんの方が住んでいました。今では会社に勤めるなどや生活の仕方が変わったために、多くの方が町に移り住んでしまい、わずかな人口になってしまいました。

東山に北アルプス誕生のなぞを探る

中山山地の中で、中山断層より西側は丸い砂利（れき）の地層がみられます。砂利の種類を見るとほとんどが北アルプスのものです。つまりここは北アルプスから流れ下る川によってつくられた扇状地だったようです。大きな扇状地ができる時代は、北アルプスが盛んに隆起（持ち上がる）している時



大峰のれき層

で、たくさんの砂利が流れ下りました。今から200万年前の出来事です。フォッサマグナの海に泥や砂が堆積した時代よりはずっと後のことです。地層の中には北アルプスの穂高岳が噴火したときの火山灰なども挟まれています。このように東山は北アルプス誕生のなぞを解明するための証拠がたくさん含まれています。

東山が隆起を始めたのは今から80万年前頃からといわれます。最初の頃は北アルプスから長野のほうへまっすぐに川が流れ下り、たくさんの砂利を運んで広い河原ができたと思います。東山が高くなるとかつての河原は山の上になり、アルプスから長野に流れる川は犀川だけになりました。山の上にたまった砂利は侵食により流されてしまったが、大きなものがわずかだけ残りました。東山の上で大きな丸い石に出会うことがあります。これが“山砂利”と呼ばれる不思議な石です。



大峰にある巨大な石（直径1.8m）
木崎湖の方から運ばれて来た

水とのかかわり

千国街道沿いの宿場町であった池田宿（今の市街地）は、高瀬川左岸の南北に細長いわずかな高まりである安全な場所（自然堤防）に位置し、東側は豊かな水田地帯となっていました。宿場用水として、上流の社地区（今の町市）の農具川より取水して町川を開削しました。町川は町の北端で東の高根川と西の西町川に分かれて南に流れ下っています。南北に細長い宿場町には、広い道のまんに町川が流れ、生活用水として利用されました。街並みの両側背後には小さな用水（呑堰）があり、飲料水としても用いられたようです。これらの川や用水は、形は変わっても、いまでも利用されています。

近世になると水田開発が進み、灌漑用の用水が求められました。松本藩郡奉行の岡江惣右衛門は、この村の水の乏しいのを見て、寛永十八年（1641）に町川から分水した用水（延長5.2km）を東山沿いに完成させました。これが岡堰です。岡江は引き続き慶安二年（1649）



中島地区をゆったり流れる岡せぎ

に社新堰を開削しました。村境で分岐して飯森田堰となり中島地区まで延長8kmも続いています。会染地区においては、農地の構造改善により以前からの用水はわかりにくくなっています。地下水位が高く、湧水による新たな水路もあります。ただ東の山麓には、滝沢から鶴山まで、古くからの日岐堰が残っています。平野の中央を流下する内川は、灌漑用水とともに、近年は洪水時の排水水路としての役割が大きくなっています。また、高瀬川と並行して藤田川（舟川）が五丁目から十日市場まで続き、昔の川の名残がうかがえます。



今も大事な役目を果たしている主な用水

5 歩いてみたい町のだ

花とハーブの里・安曇野の北部に位置するこの町は、田園風景とこの地域のシンボルである「有明山」を正面に眺め、北アルプスを一望できる景観の素晴らしい町です。春には東山陸郷桜仙峡などに代表される山桜が咲き誇り、秋には大峰高原の大カエデなどの紅葉、冬には澄み切った空にくっきりと雪化粧した北アルプスなど四季を通して楽しむことができます。また、かつては塩の道の宿場町として栄え、歴史と文化も色濃く残っています。そんな町の歴史や自然を楽しみながら歩く道を池田町観光推進本部・池田町観光協会・池田町ガイドマスターによりウォーキングコースが作られています。歩く道7コースを紹介しましょう。

安曇野北アルプス展望のみち（約18km）

一般社団法人日本ウォーキング協会から「美しい日本の歩きたくなる道500選」に長野県のトップで認定されたコースです。これは2003年（平成15）12月から16年2月までに全国から2427（長野県85）コースの応募があり、長野県では池田を含め12コースが選ばれました。



出発点のクラフトパーク

あづみ野池田クラフトパークを起点に大町山岳博物館までを結ぶ道で、国宝仁科神明宮や点在する道祖神・石仏群などをとおしてそこに息づいた人達の生活に迫ることができます。また、世界に誇る北アルプスをバックに田園や屋敷林・扇状地・高瀬川の展望も楽しみながら歩ける道でもあります。

ぐるっと池田街中歩きコース（約2 km）



宿場町のなごりを残す市川家

文化を偲ぶ街中を歩くコースです。

東山ままこ落としトレッキングコース（約6 km）

断崖絶壁のままこ落とし。ここから屏風のように連なる壮大な景観を楽しみながら赤松や雑木林の稜線（山の尾根）を歩きます。安曇野池田クラフトパークから大穴山・田の入

塩の道街道の宿場町として、また製糸産業で発達し栄えたこの町は、街道沿いにその面影を残しながら町並みが点在しています。歌人、島木赤彦やてるてる坊主の作詞者、浅原六朗の碑・また池田学問所の創始者、杉山巢雲の寿碑が八幡神社境内に建てられています。池田鉄道のあった信濃池田駅跡や繭倉庫・酒造に使われた大きな蔵など見ながら歴史と



ままこ落としの土柱

城・ままこ落し・八代峠を越えて登波離橋まで、変化に富んだスリル満点の山道コースとなっています。

陸郷山桜トレッキングコース（約8.5 km）・陸郷山桜散策コース（約5 km）



夢農場の山桜



夢農場のハーブ

「西の吉野か東の桜仙峡」と呼ばれる見事な山桜は4月中旬頃に見頃を迎え、後方にそびえる残雪の北アルプスとのロケーションは毎年新聞にも取り上げられ、観光スポットともなっています。陸郷夢の郷「夢農場」を起点に東山尾根づたいに八代峠・登波離橋へ、360度の展望が楽しめる二本松から豊盛公民館を経由して元に戻る山桜コースとなっています。

大峰高原白樺の森ウォーキングコース（約8.5km）

標高1,000 mの大峰高原は、白樺やツツジが群生し、多くの木々・花・野鳥などが見られる自然の植物園です。池田の町を眼下に、ここから見える雄大な北アルプス連峰は白馬三山まで望むことができ四季折々楽しめるコースとなっています。町のシンボルとなっている「大カエデ」は樹齢約250年と言われ、さわやかな新緑から鮮やかな七色に色づく秋・また雪化粧する冬まで、訪れる人々を魅了しています。



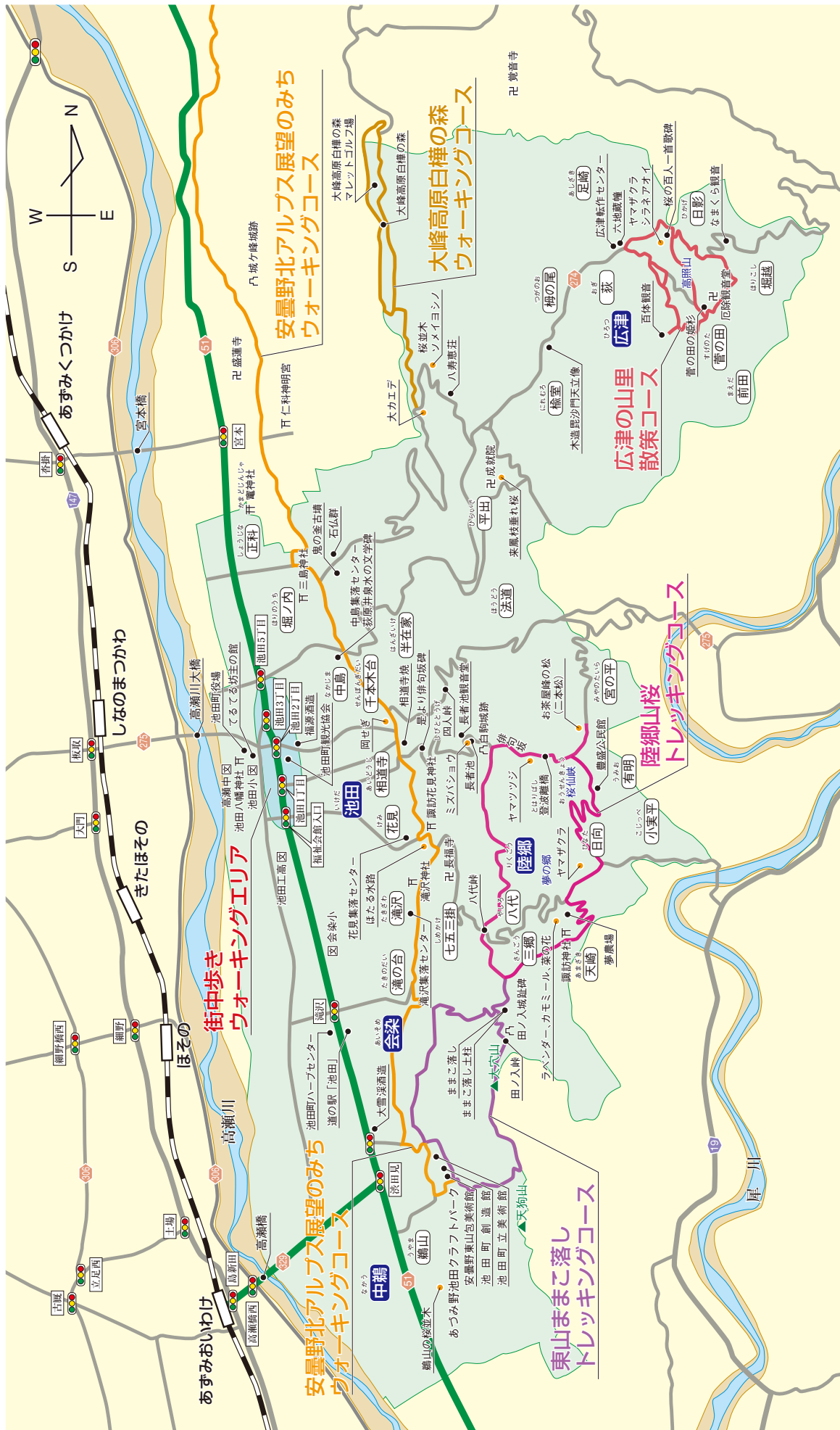
大峰高原の大カエデ

広津の山里散策コース（約4 km）

「石造百体仏像」や「毘沙門天立像」など県宝や町の文化財に指定された多くの仏像が安置されている歴史の深い地域で、石仏めぐりのコースです。標高919 mの高照山からは360度のパノラマが楽しめ、遠くは妙高山から浅間山など望むことができます。またこの場所に植えられた桜やシラネアオイも数を増し、見ごろとなっています。



石造百体仏像

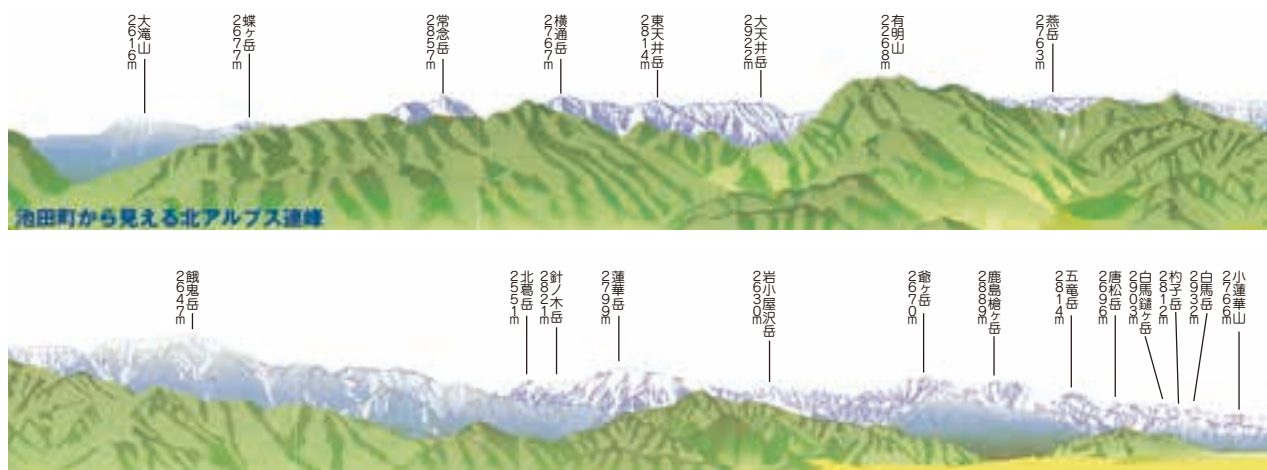


ウオーキングマップ

6 北アルプスの山々

飛騨山脈は富山県・岐阜県・長野県にまたがって連なる山脈で、通称（一般に通用している名前）北アルプスと呼んでいます。わたしたちの住んでいる町から、南は大滝山から北は白馬三山や小蓮華岳まで北アルプスが眺望（ながめ）でき、四季の移り変わる姿を楽しむことができます。けれども3,000m級の槍ヶ岳や穂高岳は見え、白馬岳の2,932mがここから見える最高の山となっています。

池田町から正面に見える有明山（ありあけざん・ありあけやま）は別名「信濃富士・有明富士・安曇富士」などと呼ばれ地域の人々に愛されてきました。有明山という名は、神話にでてくる天照大神が岩戸にこもって天下が闇につつまれたとき、手力男命が岩戸をつかんで投げ、その岩がここに落ち天下が明るくなった山なので有明としたとの伝説があります。



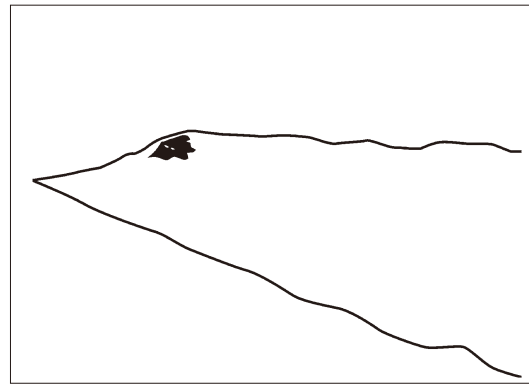
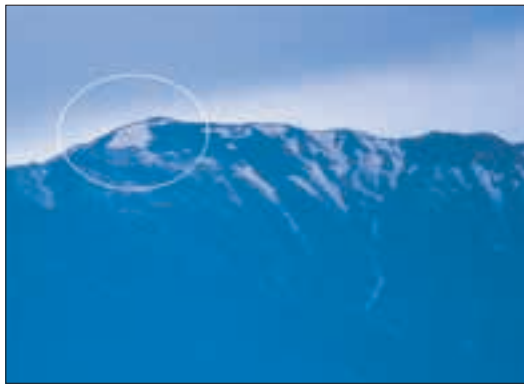
山の図

※北アルプスの中の日本百名山（常念岳・鹿島槍ヶ岳・五竜岳・白馬岳）

わたくしたちを楽しませてくれる北アルプスの雪形

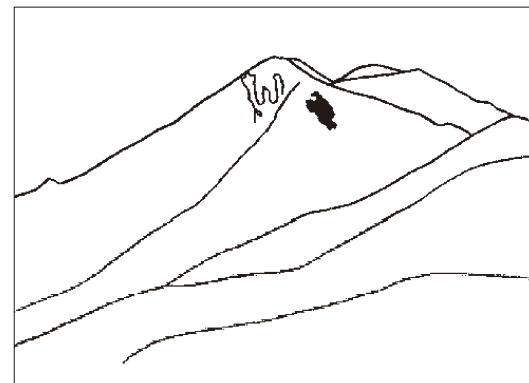
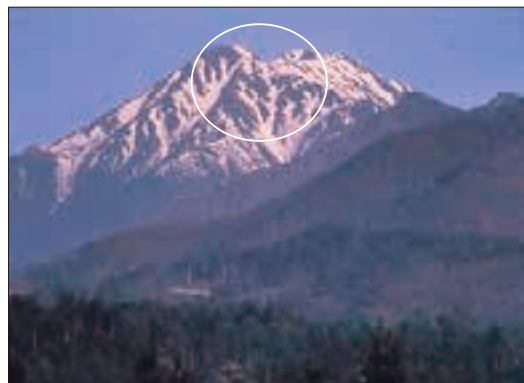
春から初夏にかけて北アルプスの山々にいろいろの形をした雪形が現れます。これは山腹（山の中腹）の残雪が消えてゆくのにともない、残雪が何かを形づくると、溶けて山肌が現れ黒く浮き出してくるものと2種類あります。

池田から見える主な雪形を紹介します。いろいろな雪形を発見してみてください。



蝶ヶ岳の蝶

見頃は5月初旬～6月初旬、大きな羽を広げた蝶が稜線近くに現れます。この中では一番遅く現れる雪形です。



常念岳の常念坊

見頃は3月下旬～4月中旬、安曇野の民話にある常念坊がとっくりを手をしています。



爺ヶ岳の種まき爺さん

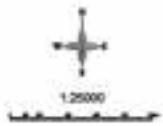
見頃は3月下旬～4月下旬、山の名前の由来となった雪形で、種をまいている爺さんの姿に見えます。この雪形が現れると農作業の始まりです。



鹿島槍ヶ岳の鶴と獅子

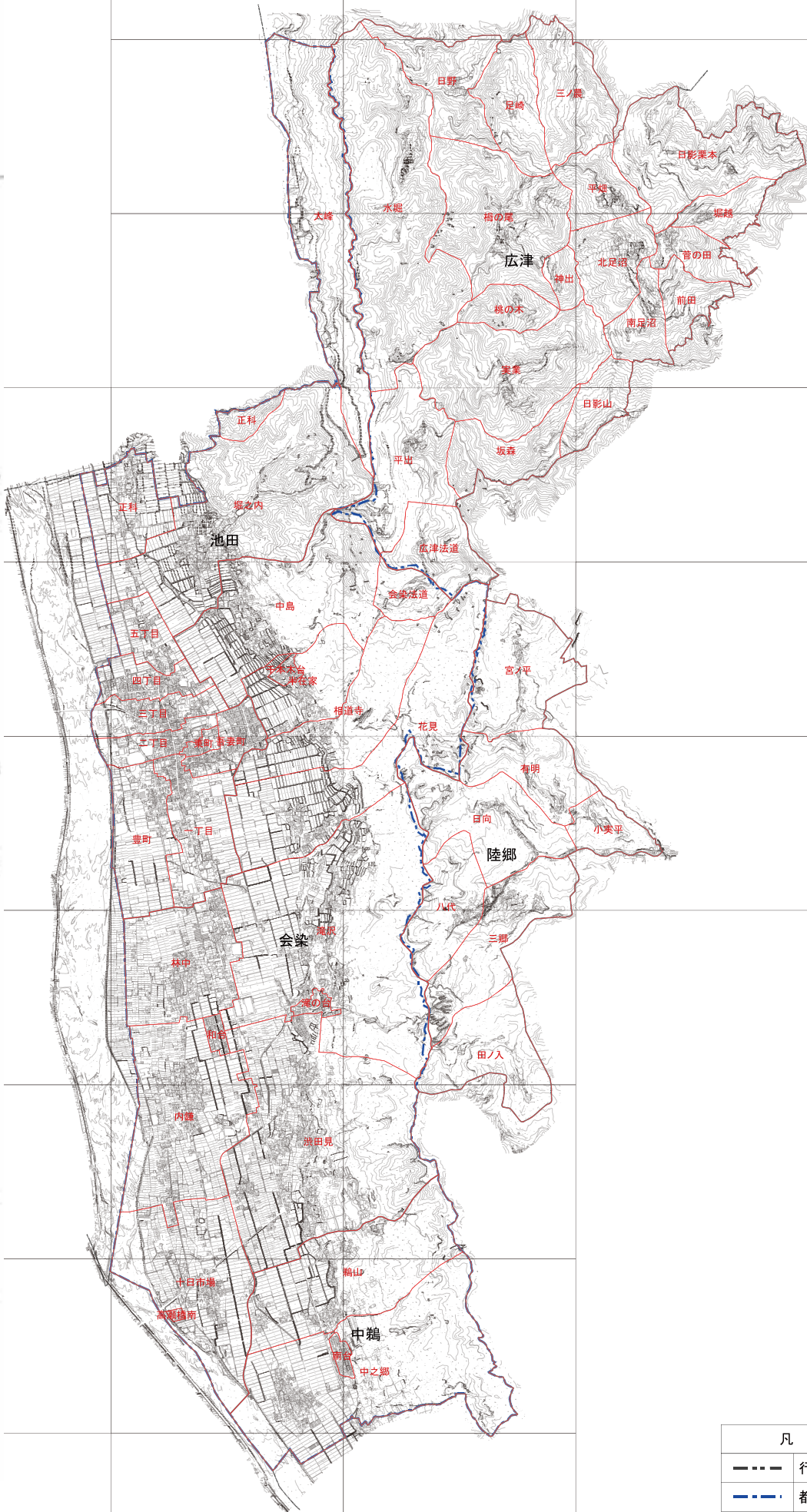
見頃は4月下旬～5月中旬、駆け下りる獅子と、飛び立とうとし伸び上がる鶴が対して見えます。

池田町の地図



★地区割り設定図

No.	町名	読み方
1	豊町	ユタカチョウ
2	1丁目	イチチョウメ
3	吾妻町	アヅマチョウ
4	東町	ヒガシマチ
5	2丁目	ニチョウメ
6	3丁目	サンチョウメ
7	4丁目	ヨンチョウメ
8	5丁目	ゴチョウメ
9	堀之内	ホリノウチ
10	正科	ショウジナ
11	大峰	オオミネ
12	中島	ナカジマ
13	会染法道	アイソメホウドウ
14	半在家	ハンザイケ
15	千本木台	センボンギダイ
16	相道寺	アイドウジ
17	花見	ケミ
18	滝沢	タキザワ
19	滝の台	タキノダイ
20	林中	ハヤシナカ
21	浪田見	シブタミ
22	内鐘	ナイガマ
23	和合	ワゴウ
24	十日市場	トオカイチバ
25	高瀬橋南	タカセバシミナミ
26	鶴山	ウヤマ
27	南台	ミナミダイ
28	中之郷	ナカノコウ
29	広津法道	ヒロツホウドウ
30	平出	ヒライデ
31	坂森	サカモリ
32	日影山	ヒカゲヤマ
33	堀ノ尾	ツガノオ
34	桃の木	モモノキ
35	神出	ジンデ
36	実業	ジツギョウ
37	日野	ヒノ
38	足崎	アシザキ
39	水堀	ミズボリ
40	三ツ農	ミツノウ
41	平畑	タイラバタケ
42	北足沼	キタアシヌマ
43	南足沼	ミナミアシヌマ
44	前田	マエタ
45	菅の田	スゲノタ
46	堀越	ホリコシ
47	日影栗本	ヒカゲクリモト
48	宮の平	ミヤノタイラ
49	有明	ウミオ
50	小栗平	コジツベ
51	日向	ヒナタ
52	八代	ヤシロ
53	三郷	サンゴウ
54	田ノ入	タノイリ



凡 例	
---	行政区境界
---	都市計画区域界
---	大字界
---	小字界

歴 史



写真は、池田町広津^{つが}の尾に保管されている、毘沙門天立像^{びしゃもんてんりゅうぞう}（^{けんぼう}県宝）です。

「毘沙門天」は、仏法を守るための像だといわれています。守るために力強さをあらわす怒^{いか}りの相^{あらわ}を現し、身にはよろいかぶとをつけています。

このように、古くから残されているものには、そのひとつひとつが意味をもっています。

私たちが、今のような生活ができるようになるまでには、先人^{せんじん}の多くの生きた姿が歴史のなかでつながってきています。

土地^{ひら}を拓いたり、産業を発展させたり、文化を生み出したりしています。私たちは、昔の人たちが生み出した知恵^{ちえ}を学ぶことによって、今の自分たちをよりよいものに高めていきたいものです。

1 池田町に人びとが暮らしはじめたのはいつごろだろう

木の実や小さな動物をとっていたころ

池田町のあたりに人が住みはじめたのは、今からおよそ8000年ほど昔の縄文時代はじめころだといわれています。堀之内から中之郷にかけての東山のふもとや、広津平出など東山の日当たりがよくて近くに水のあるところに、いくつかの家族が集まって住んでいました。人びとはクリやクルミなどの木の実や鳥・けもの・魚・貝などをもって食べ物にし、縄文式土器といわれる表面に縄のもようをつけた土器や石で作ったさまざまな道具を使って生活していました。



縄文式土器（堀之内出土）

米が作られるようになったころ

今から2300年ほど前になると、大陸から米を作る技術が伝わってきました。池田町のあたりでも約2000年ほど前の弥生時代中ごろから米作りが始まります。



弥生式土器
（中島・北岡遺跡出土）



打製石器 石斧
（広津・石原城址遺跡出土）

東山のふもとに続く小高い丘（段丘）の平らなところでは、沢の水やしめった土地などを利用して米作りが行われるようになり、堀之内から中島にかけてや滝沢、中之郷へと続く段丘のところどころに村ができました。

米作りがさかんになり、人びとの暮らしは安定しましたが、一方で、豊かな人と貧しい人の差が生まれるようになりました。やがて、豊かな人の中から村を支配する人（豪族）があらわれ、自分の力をしめすために古墳とよばれる大きなお墓を作るようになりました。堀之内には、鬼の釜古墳が造られ今に残っています。

なお、古い時代の人びとの生活のあと（遺跡）からは、いろいろな道具や器がみつかり、それらから当時の人びとの暮らしを想像することができます。



弥生式土器（滝沢・滝の台遺跡出土）



鬼の釜古墳 内部

2 国ができ、きまりができたころの池田のようすはどうだったのだろう

きまりができたころ

奈良時代になると、国を治めるきまりやしくみがととのい、国の支配が安曇あづみのような地方にもいきわたるようになりました。奈良の正倉院しょうそういんの宝物ほうもつに麻で作られたはかまが残されています。これは764年(天平宝字8)てんぴょうほうに、現在の池田町から安曇野市明科の地域にあったとされる安曇郡おとろさきしなごう前科郷あづみべのまひつじに住む一族の長(安曇部真羊あづまべまひつじ)が、税ぜいとして納めたものです。

仁科氏が池田を治めるようになったころ

奈良時代から平安時代へと移っていくなかで、地方の豪族ごうぞくたちは開こんして自分の土地を持つようになりました。その土地を莊園しょうえんといいます。豪族たちは、皇室こうしつや位の高い人などともつながって広い莊園をもつようになりました。やがて豪族たちのなかには、武器ぶきをもって自分の莊園や領地を守る者が出てきました。それが武士のはじまりです。



渋田見城跡図『池田町誌』

平安時代の終わりのころになると池田の地域には矢原庄・大穴庄あなのしょう さくみのしょう・前見庄という三つの莊園がありましたが、やがてとなりの大町に勢力をもっていた仁科氏にしなしが池田を治めるようになりました。

仁科氏は親せきや家来を池田の村々におき、中島とか渋田見などの地名を名字みょうじ(姓せい)にしました。そしてそれぞれに館やかたをもち、近くの山に山城を造って治めていました。

全国各地で戦いがあつたころ

1544年(天文14)ころから甲斐かい(山梨県)の武田信玄しんげんが信濃しなの(長野県)に攻めこみ、領土を広げていました。仁科氏は武田氏にこうさんし、仁科氏が治めていた池田・大町・安曇などの地域は武田氏の治めるところとなりました。その後、仁科氏は武田氏によってほろぼされ、武田氏も織田信長おだのぶながによってほろぼされました。かわって武田氏によって松本を追われていた小笠原氏おがさわらしがふたたび松本に帰り、かつての仁科氏の領地を治めるようになりました。

全国では、1603年(慶長8)徳川家康が江戸に幕府を開き、時代は江戸時代へと移っていきました。



正倉院に残る麻のはかま
『池田町誌』



生島足島神社に残る起請文

『写真が語る池田町誌』

仁科氏の主な家臣たちが武田氏に対して絶対にそむかないことを神や仏ちかに誓って約束した文書

3 江戸時代の池田町はどのようなものであったのだろうか

今のような池田町はどのようにして生まれたのでしょうか。

池田町一丁目地籍にある「農民グランド」の北側に「ごりょうの木」があります。以前は、写真に見られるような木が立っていました。1965年(昭和40)ころから枯れだしたので、親木から挿し木で育てた木が、1995年(平成7)に合併40周年を記念して植えられました。

この木の周辺に^{もとまち}元町とよばれた土地がありますが、ここが池田町の生まれた地ではないかと伝えられてきました。



ごりょう
御陵の木

池田町の地形のところで述べられているように、この町には高瀬川^{さかん}左岸^{はんらん}の氾濫によってできた南北に小高い土地がありました。ここは高瀬川の洪水にたいして、自然堤防^{ていぼう}のような役目をしてきました。安全な地であるということから人が住むようになったとも言われています。いっぽう、洪水の心配の少ない段丘といって小高い土地にも人が住んでいました。正科・堀之内・中島・半在家・相道寺・花見・滝沢などがそうです。

段丘の上でも下でも稲がつくられるようになりましたが、稲をつくるのに必要な水は、山から流れ出す沢水や地下から湧きだす湧き水をつかいました。沼地のような水田が、あちらこちらにあったことから、「池田」とよばれるようになったと言われています。

さかんになった新田開発

1603年(慶長8)、徳川家康が江戸に幕府^{ばくふ}を開き、約260年続く江戸時代が始まりました。江戸時代の池田町は、松本藩^{はん}に治められていました。この時代、幕府や藩の収入の元は年貢^{ねんぐ}です。年貢である米を作るには、栄養がたくさんある豊かな土地とたくさんの水が必要です。昔から池田は土地も豊かであり、沢水や湧き水、川の水も使うことができたので、米作りによい地域でした。

戦国時代の終わりから江戸時代の初めにかけて、各地で新田開発(新しい田畑をつくる)が行われました。田畑には水が必要なので、幕府や藩は用水路

表1 池田組内の新田開発

新田名	開発年代(西暦)
内鎌新田村	慶長7年(1602)
青木新田村	慶長18年(1613)
島新田村	慶安1年(1648)
萩原新田村	承応1年(1654)
嶺方新田村	不 明

『池田町誌』

や堰（水を引くためや、水の量や高さを調節するために水路の中につくられたもの）をつくりました。池田の新田開発は、松本藩が町川から水をとる岡堰をつくったことによって進められました。川や水路、堰が作られ新田の開発は行われたのです。

池田では近世以前に町川から水を引いた用水路によって、田畑と集落ができたといわれています。この町川は大町の農具川から水を引いていました。農具川の水は水温が高く水量も安定していたため、農業用の水として最適でした。しかし、田畑をたくさんつくるため、より多くの水が必要になり高瀬川からも直接水を引くようになりました。また、高瀬川から遠く離れた地域では、山から流れてくる沢の水を利用して新田をつくりました。

池田組（組は松本藩の領地を大きく区分けした単位）では江戸時代の初めに、内鎌新田村・青木新田村・島新田村・荻原新田村・嶺方新田村の五つの村が新田の開発によって誕生しました。この開発によって、水を引きやすい高瀬川の近くに田畑がたくさんつくられ、表2でみることができるように池田組の石高（検地によって決められた米の生産量）は驚くほどに増えました。



町川『池田町誌』

表2 池田組の年代別石高の推移

年代（西暦）	石 高
天正19年（1591）	5926.842
慶長19年（1614）	5915.4378
寛永15年（1638）	7683.366
寛文4年（1664）	10274.2298
元禄3年（1690）	9295.4870
正徳3年（1713）	9119.3645
安政2年（1855）	10024.4781
明治元年（1868）	10741.3129

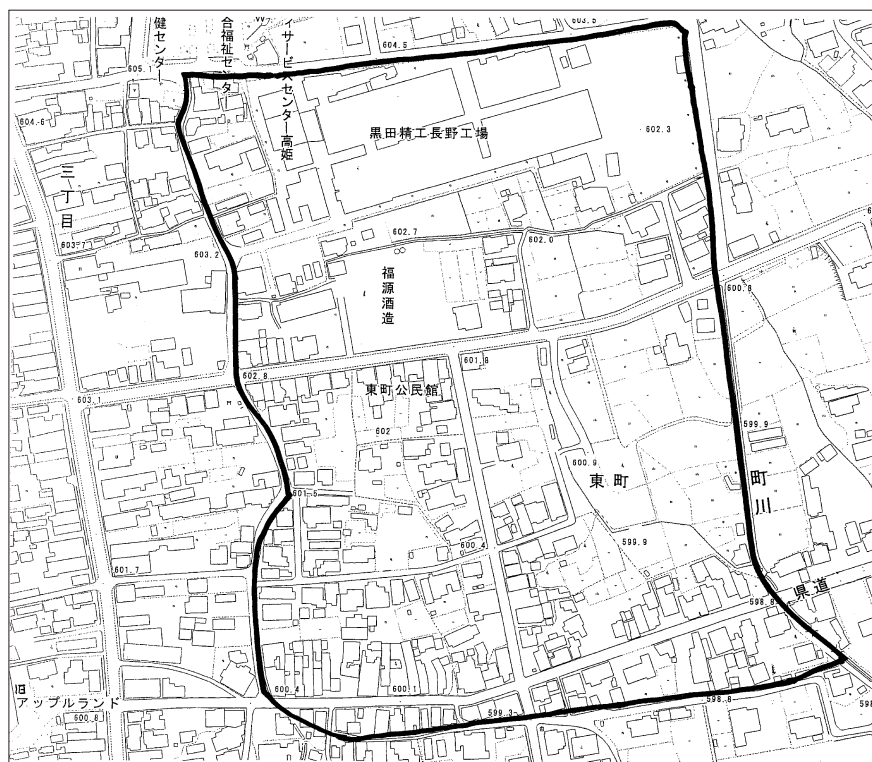
『池田町誌』

新田の開発には、開発してから決められた期間、年貢（税金）を納めなくてよい鍬下年期というきまりがあったため、大勢の人が新田開発を行いました。しかし、新田の開発があまりに進み過ぎて草や木の根まで抜いてしまいました。そのため、強い風や雨がたくさん降ると土砂が河川に流れこみ、洪水が起こりやすくなってしまいました。河川に近い村は何度も水害に悩まされたようです。

‘まぼろしの城’ 若松城^{わかまつじょう}

現在の三丁目から東町を通り吾妻町にかけて、高根川^{たかね}が流れています。この高根川に沿って城の外堀^{そとぼり}（西側）があったとされています。実は、池田に東西約300m、南北約380mの大きさの城が築かれる予定だったのです。

1619年(元和5)、松本藩^{げん な}の藩主であった戸田康長^{と だ やすなが}は領地である池田の地に城を築こうとしました。この時



若松城のあった場所（太線は外堀）

康長は57歳でした。当時としてはすでに高齢だったので、2番目の子どもの忠光^{ただみつ}に藩主をゆずった後、自分の住む城を造ろうと決めたようです。領地は、池田・松川・大町の3組で約1万5000石を予定していました。池田組は豊かな土地であり、内鎌新田や青木新田などの新田開発も行われ、松本藩のなかでも石高の多い土地であったため、この地が選ばれたと考えられています。

元和5年の暮れから工事が始まりました。一部分を残して外堀が完成し、土づくりの倉庫である土蔵なども出来上がっていました。池田・松川・大町の3組が城造りの仕事をまかされました。この城は若松城と呼ばれ、城内には松がたくさん植えられたようです。

しかし1629年(寛永6)3月16日に、跡継ぎ^{あとつぎ}の忠光が33歳で死んでしまいました。康長は三男の康直^{やすなお}を跡継ぎとするための手続きや、康直に跡継ぎとしての指導をしなければならず、隠居^{いんきょ}（自分のあとを子どもにゆずる）をすることができなくなってしまいました。主となる人のいなくなった若松城は工事中止となり、跡形もなく壊されました。こうして若松城はまぼろしの城となってしまいました。

若松城は完成することはありませんでしたが、城を造るために使われたおよそ10年の年月をきっかけに、池田は宿場町^{しゅくば}として、また商業の町として整備^{せいび}されました。

宿場町の様子と産業

中世の時代に、街道の道すじには旅人を泊めたり荷物を積み替えたりする宿場町ができました。池田の宿場町である池田宿は、松本城下から北陸へ通じるただ一つの主な道である「仁科道」の道すじにありました。仁科道は別名、糸魚川街道・松本街道・大町街道・千国街道とも呼ばれ、松本から糸魚川まで全長約120km（約30里）でした。

仁科道は大きくわけて三つの役割を持っていたと考えられます。一つ目は生活に必要な物の交流に利用されたということです。越後（新潟県）から入ってくる荷物は、海でとれた塩や魚はもちろんのこと、北陸やはるか遠くの九州の焼き物などもありました。特に生活するために必要な塩が多く運ばれたので、現在この仁科道は「塩の道」とも呼ばれます。信州からは麻・蓑・綿・炭・櫛などが主に運ばれました。二つ目は他の地域との文化や信仰などの交流にも役立ったということです。神社へなどお参りに行ったり温泉へ湯治に行ったりする時にも利用されました。三つ目として、年貢米等を運ぶためにも利用され、藩のためという役割もありました。

若松城を造る工事がされていた約10年の間に、池田は宿場町として、また商業の町として発展しました。米をはじめとした作物の生産地であるとともに、仁科道を行き来する荷物の荷継宿として適した場所であったため、賑わいを見せました。宿には荷継問屋があり、荷物の管理をしていました。江戸時代後期の『池田宿問屋帳』によると1816年(文化13)には、南の穂高宿へ麻・肴・布・紙・藍・繭などを、押野村へは紙・刻・蓑などを、北の大町宿には藍などと各方面へ多数の荷物を継いでいます。

この地域では荷物を運ぶためには牛馬が必要でした。この時代には伝馬という宿駅ごとにいる馬に荷物を積み替えながら継いでいく方法がありました。しかし伝馬は領主の荷物と役人の往き来を優先していたので、一般の人の荷物などを運ぶ場合は時間がかかりました。また宿駅ごとに、馬を利用するための駄賃（運び賃）と荷継問屋に口銭という手数料を支払わなければならなかったため、費用もかかりました。そこで、一般の人が利用できる方法として「中馬」という特有の方法が利用されました。中馬は目的地まで直行するか、仲間で決めた場所で荷物を継立て（乗り換え）をしていく方法なので、伝馬よりも早く安く荷物を運ぶことができました。



池田宿 北入口五丁目 如意輪観音堂
『池田町誌』



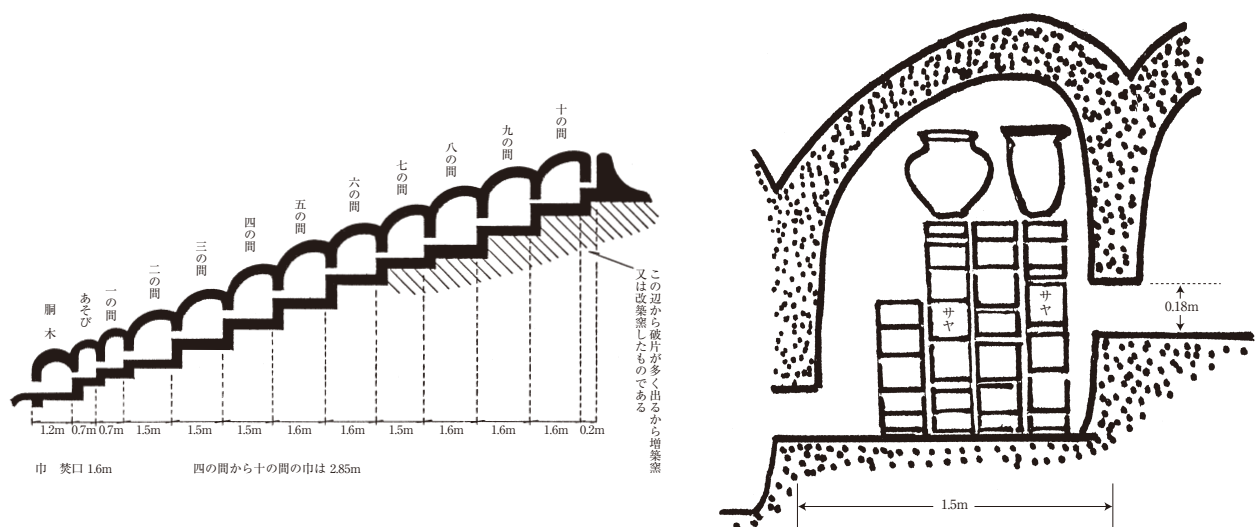
宿場町当時のおもかげを残す格子戸のある家
『池田町誌』

た。池田町村だけでも66頭の中馬のための馬がおり、交通が盛んであったことがわかります。

仁科道を行き来する人と馬によって運ばれる物や情報^{じょうほう}が池田宿に集まり、それによって池田の産業が発展しました。18世紀の初めごろから商品作物（品物として売り買いする作物）の栽培が積極的に行われるようになりました。また農業をやらない時期を利用してお金をえる「作間稼ぎ^{さくまかせ}」がされました。作間稼ぎの中に刻 菰切り^{きざみたばこき}があります。池田地域において菰は藩内でも早い時期から生産されており、中馬^{ちゅうま}によって江戸など領地の外へ運ばれ、売買されました。周りの地域と比べ菰は池田の重要な商品作物でした。

また、江戸時代の終わりの頃になると養蚕^{ようさん}が藩のすすめる産業の一つになりました。藩から蚕^{かいこ}のえさである桑を植えるためのお金が出されました。池田では『新撰養蚕秘書^{しんせんようさん ひしょ}』や『養蚕掃立ての手引き^{ようさんばき たての手引き}』といった農業の本を手に入れて養蚕を行う農民もいました。池田は、明治時代に製糸王国^{せいし}となりましたが、その土台がこの時期にすでにできていました。

池田組の中の相道寺村ではこの村でとれる粘土^{ねんど}に着目し、新しい産業を生み出しました。美濃^{みの}国（現在の岐阜県）岩村^{いほやよへい}の伊保屋与平という人を招き、瀬戸焼の技術を教えてもらいました。この村で採れる白土は粘土が多く含まれ焼き物に適していたので、与平に教えてもらった技術で焼き物を作りました。12段の登り窯^{のぼりがま}で焼き上げられ、相道寺焼として出荷されました。焼き物だけではなく、瓦焼^{かわらやき}も行うようになりました。相道寺焼の技術は高く評価され他の地域に広められました。



相道寺焼 12段の登り窯『池田町誌』

池田学問所

産業が盛んになると読むことや書くことが多くなり、人々の学問を学ぼうとする気持ちが高まりました。この時代学問の中心は武士であり、武士の子どもは藩がつくった学校（藩校）で学びました。庶民の子どもは寺子屋や私塾（幕府や藩がつくった学校ではなく学ぶところ）で学びました。池田では、村の人たちが協力して、子どもたちが男女の別なく学べるような施設をつくろうと考え、「池田学問所」がつけられました。

池田の教育の基礎である池田学問所は、1788年(天明8)に林泉寺のそばにできました。それから1872年(明治5)に郷学「池田上学校・下学校」が設立されるまでの84年間、池田の教育の中心でした。現在、一丁目に「池田学問所跡」という碑が立てられています。

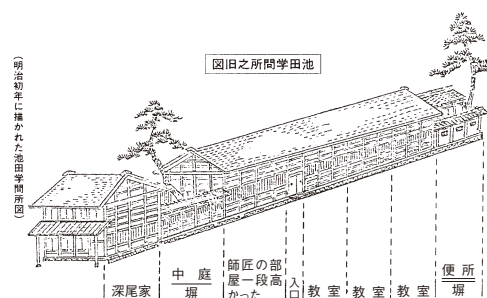
現代の学校にもきまりがありますが、池田学問所にも月謝や授業についてのきまりがありました。なかには一番上の学年である一等生の中から行司という担当者が先生の手助けをするというきまりもありました。学問所で学ぶ人は300人であったといわれています。先生一人では教えることができないので、このようなきまりがあったようです。

池田学問所の最初の師匠（先生）として、松本から杉山巢雲が招かれました。巢雲は松本藩で教養を身につけた武士でした。その時代に子どもの教育のためによいとされた「小学」（中国でつくられた昔の聖人の本から子どもの教育に必要な事を選びまとめた道德の本）という本を、村の子どもたちの教育の基礎として使いました。また昔の立派な人たちの言葉を集めた『しほり草』を書きました。このしほり草は、7・8歳ごろから心得たほうがよいことが記されており、親に対する礼儀・生活のしつけ、好き嫌いを言わないことなど、巢雲が道德を大切にしていたことがよくわかります。巢雲は1834年(天保5)に71歳でなくなりましたが、なくなった後も今この時までその心は池田の町に受けつがれています。

池田学問所ではその後、内山真弓・友成主税・市川宮内・深尾友文を師匠とし、多くの子どもたちが学びました。

池田学問所のきまり

- ・朝卯の刻（六時）から辰の刻（八時）まで読書、巳の刻（十時）より申の刻（午後四時）まで習字
- ・一六の日は講義、謡曲諸礼式は間隙をみて指導する
- ・生徒を一等より十等初等の十一等に分ち、一等生より若干名の行司を出し教場の監督及び助手をさせる
- ・学習の年限は七・八歳より十四・五歳のハカ年とする
- ・束脩（入門料）はきまりが無い。適宜の酒肴か金壺朱より二朱でよい
- ・謝儀（月謝）は五節句に蒸餅・赤飯或は精米等とする。
- ・束脩・謝儀は各自の報志の深浅と資産の貧富に応じて壺両より壺分でよい。赤貧の者（ひどく貧しい人）は納めなくてもよい



しほり草



『池田学問所小伝』

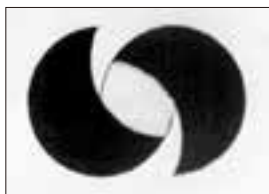
4 明治以降、池田はどのようにかわったのだろう

池田町のなりたち

池田地域には、明治になっても江戸時代の松本藩「池田組」に属していた大小20あまりの多くの村々がそのままの形でありました。まもなく、それらは国の方針によって、広津村・陸郷村・七貴村・会染村・池田町村（大正時代に村から町となる）の五つの大きな村にまとめられました。そしてさらにその後、1955年（昭和30）に池田町と会染村が合併し、1957年（昭和32）には、そこに明科町からの中之郷・鵜山地区、陸郷村の一部、広津村の大部分が合併して、今の「池田町」が誕生し現在に至っています。（右下「合併図」）住所の大字名となっている「池田・会染・中鵜・陸郷・広津」の五つは、こ

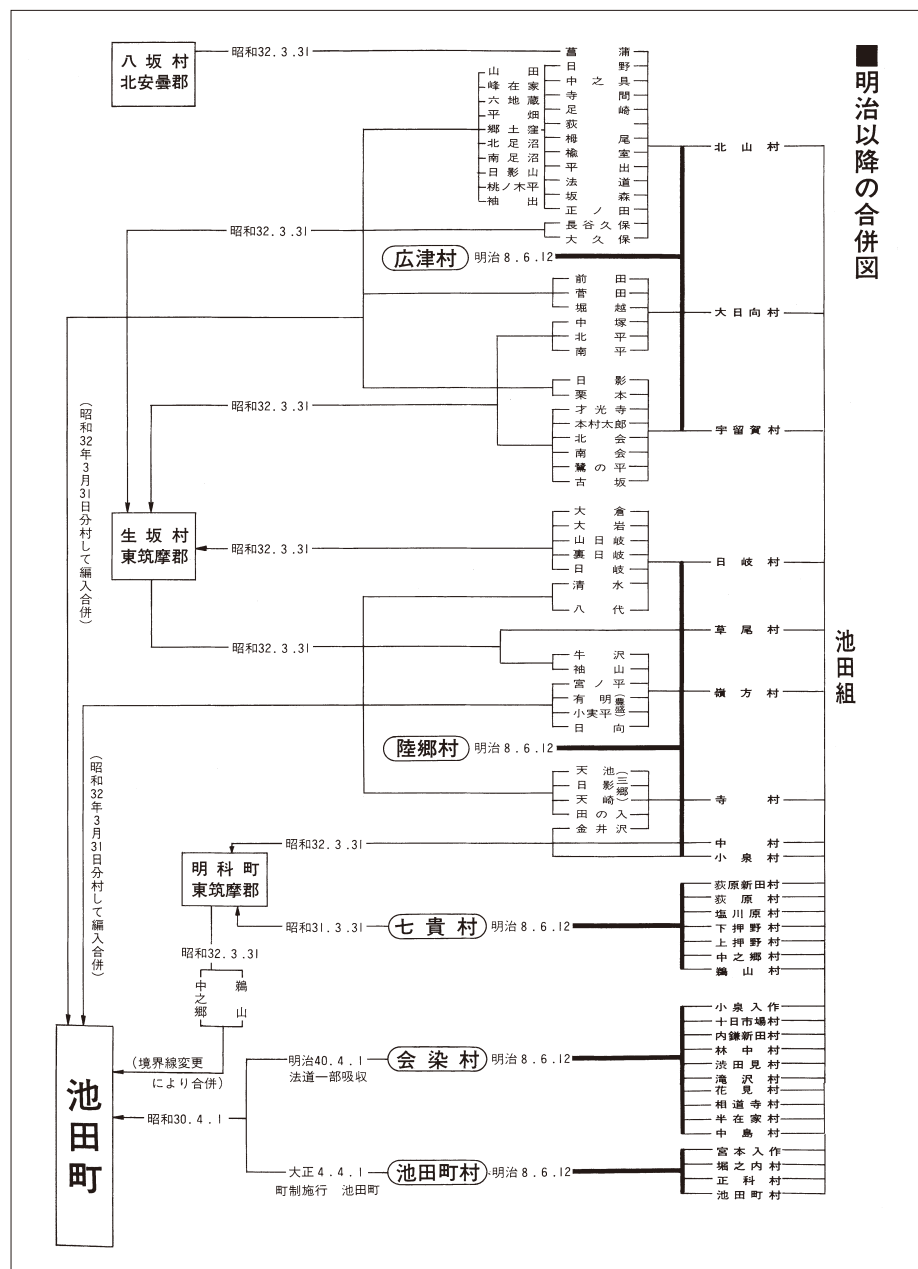
こからきています。

それでは、明治以降の150年ほどの間に、どんなできごとがあり、社会のようすや人々のくらしはどのようにかわっていったのでしょうか。また、池田町の今の姿はどんなでしょうか。これから、それらを様々な面から見ていくことにします。



《町章》

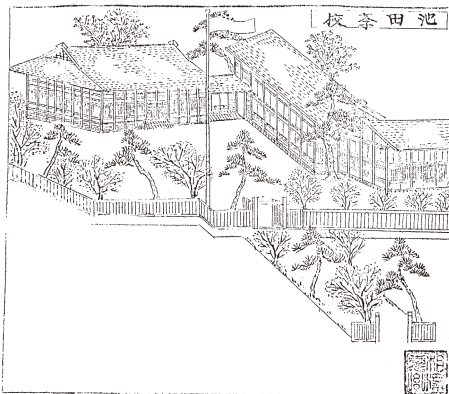
昭和41年（1966）制定



合併図『写真が語る池田町誌』

池田の学校

池田地域には江戸時代の終わりころ、「池田学問所」をはじめ多くの私塾や寺子屋がありましたが、明治に入るとまもなく国の方針により、各村ごとに「堀ノ内学校」「池田学校」「滝澤学校」「修道（のちの渋田見）学校」「前社（のちの会染）学校」「中鶴学校」「寺村学校」「白駒学校」「北山学校」などの公立小学校ができました。当時は今とちがい、貧しかったり家の仕事が多かったりなどの理由で学校へ行けない子どもも多くいましたが、次第にその数は減っていきました。小学校の呼び名も、「尋常小学校」「高等小学校」と変わっていき、やがて義務教育の年数も4年から6年へと延びました。



池田学校図（明治初期）
林泉寺の建物を使ったようです。『写真が語る池田町誌』

また、この地域では、古くから『幽谷雑誌』など数多くの書物が出版されていて、これらによっても新しい知識や技術が人々のあいだに広まっていきました。明治の終わりころには、青年たちの学習の場として「池田実業補習学校」（のちの北安曇農業高等学校、さらに池田工業高等学校と変わる）ができています。

その後、太平洋戦争（アジアでの日本とアメリカ・イギリスなどとの戦い）が始まった1941年（昭和16）には、「尋常高等小学校」は「国民学校」と呼び名が改められ、次第に戦時色が強められていきました。終戦直後は、それまで使っていた教科書のあちこちに墨が塗られるなどの混乱もありましたが、まもなく今のような「6・3・3・4制」という学校のしくみにかわり、各町村に新しい中学校が誕生しました。そして、その後の町村合併にともない、小・中学校の統合も進み、やがて今の二つの小学校と一つの中学校になりました。

1988年（昭和63）には、長野県によって「安曇養護学校」が会染地区内鎌にできています。



改築前の高瀬中学校

昭和28年、「池田町他一ヶ村組合立高瀬中学校」として開校されました。『写真が語る池田町誌』



安曇養護学校

平成22年、高等部の分教室が南安曇農業高校内に開設されました。『池田町誌』

産業の発達と交通のうつりかわり

池田地域では、明治以降も産業の中心は農業でしたが、その技術が進んだこともあって県内でも有数の米どころとして、また養蚕（繭をとるため蚕を飼うこと）地帯として栄えました。その後も、生産額の1位が米で2位が繭という状況は、昭和の終わりころまで長く続きました。しかし、近年になり繭にかわり、より収益の高いカーネーションなどの花やハーブが作られ、またかつて桑畑だった荒地にはブドウも栽培されるようになりました。昭和40年代末からは、農業経営がやりやすいようにと、田畑の区画整理や農道づくりなどの「土地基盤整備事業」が広い範囲で行われ、農業の大規模化や機械化が進められてきました。



土地基盤整備工事

十数年の長期にわたって各地で次々に行われました。『写真が語る池田町誌』

工場のほとんどは姿を消してしまいました。そのような中、ただ1社、組合製糸の「高姫社」（現在の「総合福祉センター」の位置）だけは、20年ほど前まで操業を続けました。町内には、かつて繭を貯蔵するための「繭蔵」と呼ばれた建物の一部が今でも残っているところがあり、当時の面影を残しています。



製糸業全盛のころの町の遠景 何本かの煙突がみえます。中島方面より池田町を望んだ風景です。『写真が語る池田町誌』

一方、工業の部門では、明治のはじめより、繭から生糸をとる「製糸業」が行われてきましたが、次第に工場での器械製糸が発達し、大正のはじめには県内の岡谷・須坂に次ぐ「製糸の町」として栄えました。いくつもの工場の煙突が立ち並び、町じゅうが活気で満ちていました。しかし、昭和になると、世界的に景気が悪くなる中、生糸の値段が半分以上にさがるなどで、製糸業は衰えていき、



繭を選別する女工さん

最盛期、町は工女で埋まるほどであったと言われています。『写真が語る池田町誌』



戦後の繊維工業の様子

ワイシャツや肌着などを作る規模の大きい工場ができました。『写真が語る池田町誌』

戦争直後は物不足があり、さまざまな制限が行われたりして、いったんは商業活動は衰えましたが、まもなく再び活発になり、店の改良や大型化などがみられるようになりました。

これら諸産業の発展とあいまって、交通も発達しました。道路輸送では、人力車・馬車・自動車の順で急速な進歩をとげました。またこの間に犀川や高瀬川に大きなしっかりした橋



昭和32年ころの商店街

特にあめ市・ひな市・えびす講などの売り出しには多くの人出がありました。『写真が語る池田町誌』

との競争もあり、一層きびしい経営が続き、1938年(昭和13)、人々に惜しまれながら、営業を終えることになりました。この間、わずか11年9カ月の運行でした。現在では東町(信濃池田)と五丁目(北池田)にプラットホームのあとが確認でき、また東町には駅舎あとも残っていて当時をしのぶことができます。

戦後はそれまでの製糸業にかわり、電気・機械・精密・光学・電子・木材・食品・繊維などのさまざまな工業が発達しはじめました。

糸魚川街道ぞいの池田地域は、古くから南や北よりさまざまな物資が運びこまれたり、麻や煙草など地元の産物が各地に送り出されたりして商業も栄えてきました。明治以降も産業(特に製糸業)の発達により、原料の繭や製品の生糸などの物資の売買がいっそう盛んになり、大いににぎわいました。しかし昭和に入り、不景気の影響を受けたり、戦中・

がかけられ、道も広くまっすぐになるなど整備されていきました。1921年(大正10)には、「白馬自動車」(のち松本電鉄へ買い取られる)という会社ができ、バスによる輸送も始まりました。鉄道は1916年(大正5)に「信濃鉄道」(今のJR大糸線)が、松本から松川を通り大町まで開通すると、やがてこの地域に鉄道がないことによる不便さを感じた人々によりその建設計画が進み、急ピッチの工事の末、1926年(大正15)9月に開通しました。この「池田鉄道」という私鉄電車は、大糸線の「安曇追分」駅から分かれ、「十日市場」「会染」「柏木」「南池田」「信濃池田」「北池田」の6駅、約8kmを14分で走りました。しかし、人や物などわずかな距離を運ぶだけであつたので、空席がめだち「シジュウカラ」とのあだ名がつけられるほどで、開通以来赤字続きでした。その後、製糸業の衰えや白馬自動車のバス



池田鉄道を走った電車
一日全線20往復しました。『写真が語る池田町誌』



池田鉄道の本社建物
昭和63年当時の様子です。『池田町誌』

戦争と人々の暮らし

今から70年ほど前に始まった太平洋戦争に際しては、池田地域でも多くの人々が戦場や満州開拓地へ出向き、そこで命を落とすなどの大きな被害を被りました。また、地域に残った人々も、大変な物不足や食料不足に苦しむなどそれまでの日常の生活が大きく変わることになりました。学校では、勤労奉仕といって近くの山や荒れ地を切り開いたり、戦地に出かけた兵隊さんの家や戦死した人の家へ農業の手伝いに行ったり、大町のアルミニウム工場へ働きに行ったりするなどして、勉強時間は少なくなっていました。また、校庭を畑にして大豆・カボチャ・サツマイモなどの野菜が作られたり、春には山菜採りも行われたりしました。校舎内に軍隊が駐留（長くとどまる）した学校や兵器の研究所が移ってきた学校もありました。さらに、都市部から空襲を逃れて多くの子どもたちが移ってくるようにもなりました（学童疎開）。戦争が激しさを増した1945年（昭和20）になると空襲警報（敵の飛行機がやって来るといふ知らせ）が鳴り響くようになり町中の家の白壁には、敵の飛行機に見えないように土や墨が塗られました。やがて長野県にも爆弾が落とされるようになり、この近くでは、穂高の有明に落ち死者も出ました。

現在、クラフトパーク内には、上原良司（池田町〈当時の七貴村〉鵜山の出身で、戦没学生の手記を集めた『きけわだつみのこえ』という本の最初に「所感」が掲載されている）の碑が建てられていて、私たちに自由や平和の尊さを語りかけています。



国民学校の勤労奉仕
生徒が学生服姿で作業に当たっています。『写真が語る池田町誌』



池田町 殉国英霊の塔
八幡神社境内に昭和41
年に建てられました。
『池田町誌』



上原良司の石碑
生誕地である池田町に平成18年に建てられました。『上
原良司の灯を守る会パンフレット』

現在の池田町

池田町の人口は、2018年(平成30)現在9,900人ほどですが、明治以降の変化をみると、地区ごとに大きな違いがみられます。合併前までは、池田・会染地区では製糸業などの諸産業の発達により約2倍に増え、その後も会染地区は増え続けています。一方、広津・陸郷地区では、明治以降しばらくは大きな人口の変化はありませんでしたが、合併後は、急に減り続け、今では合併時の10分の1以下になっています。また、この間、世帯数が増加し、一世帯当たりの人の数は、明治末の6人前後から、昭和35年には4.7人、平成30年は、2.5人と減ってきています。年齢別人口では、若年層・中間層が少なく高齢者層が多くなる傾向も進んでいます。

(人)

地区名	明治8年 (1875年)	明治38年 (1905年)	昭和10年 (1935年)	昭和40年 (1965年)	平成7年 (1995年)	平成22年 (2010年)	平成29年 (2017年)
大字池田	1,973	2,843	4,310	5,025	5,019	4,346	4,030
大字会染	2,284	3,270	3,698	3,570	4,632	5,104	5,090
大字鶴山	(2,096)	(2,755)	(2,978)	840	1,001	944	860
大字広津	(2,996)	(3,414)	(2,922)	1,078	211	115	83
大字陸郷	(2,532)	(2,973)	(2,677)	523	105	57	33
合 計	—	—	—	11,036	10,968	10,566	10,096

大字別人口の推移(住民基本台帳)

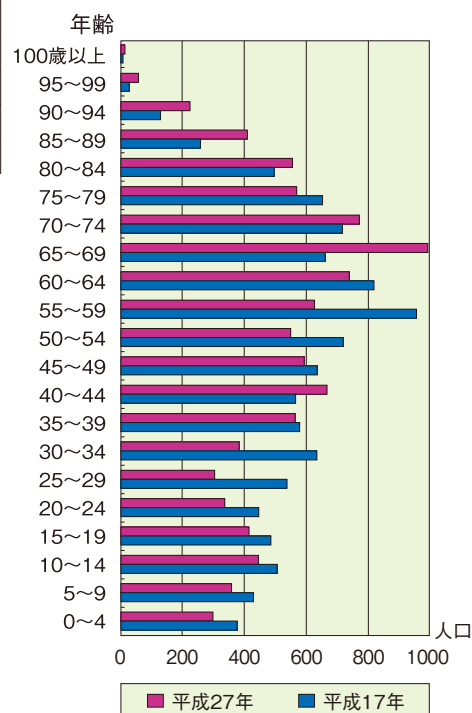
*但し、明治8年～昭和10年は旧村(鶴山は七貴村)全体の人口を示す。

(人)

	人 口	世 帯	世帯人員
昭和35年	11,250	2,417	4.7
昭和40年	10,568	2,460	4.3
昭和45年	10,245	2,513	4.1
昭和50年	10,317	2,635	3.9
昭和55年	10,610	2,777	3.8
昭和60年	10,792	2,888	3.7
平成2年	10,521	2,901	3.6
平成7年	10,712	3,090	3.5
平成12年	10,658	3,245	3.3
平成17年	10,600	3,399	3.1
平成22年	10,329	3,510	2.9
平成27年	9,926	3,518	2.8

人口・世帯の変化(国勢調査)

*住民基本台帳と国勢調査の数値は異なります。



年齢別人口(『2017町勢要覧』)

町の総面積は、約40km²で、そのうち水田が約18%、畑が約5%を占め、約390軒（平成27年）の農家があります。このうち、農業を専門に営んでいる「専業農家」はわずかで、そのほとんどは、農業以外の仕事もしている「兼業農家」です。そして農家数は年々減ってきていて、耕地面積も少なくなっています。農作物の中で一番作付面積が多いのは、水稲（米）で、次に多いのは野菜、以下小麦・大豆の順（平成27年）となっています。今は、米作りをはじめほとんどの農作業が機械化され、作業する時間も少なくなってきましたが、農業をする人の高齢化や後継者不足によりその担い手が少なくなり、農業を営むには厳しい状況になっています。

（人）

年	昭和45	昭和50	昭和55	昭和60	平成2	平成7	平成12	平成17	平成22	平成27
専業農家	144	102	127	118	138	132	74	87	94	79
第1種兼業	606	287	210	138	108	83	26	64	41	49
第2種兼業	862	1,126	1,153	1,199	1,022	965	658	493	353	262
総数	1,612	1,515	1,490	1,455	1,268	1,180	758	644	488	390

農家戸数の変化『2017町勢要覧』

現在、町内には、機械・電子・食品などいろいろな種類の大小の工場が25社ほどあり、約740人が働いています。また、商店（卸売・小売）の数は85店ほどで、約530人が働いていますが、以前にくらべ店の数は減ってきています。

町では、こうした現在の農業・工業・商業を再び盛んにし、活力ある地域にしていくため町民や企業などに対しさまざまな補助や支援を行うなど「ふるさと産業」の強化を進めています。

	事業所数	従業者数（人）	製造品出荷額（万円）
昭和63年	80	1,463	2,456,979
平成5年	89	1,467	2,396,573
平成10年	80	1,362	2,598,783
平成15年	68	911	1,488,119
平成20年	31	908	1,978,196
平成25年	26	739	1,614,405
平成26年	25	773	1,812,259

工業のうつりかわり『2017町勢要覧』

	事業所数	業種別		従業者数（人）	年間商品販売額（万円）
		卸売業	小売業		
昭和63年	150	7	143	584	774,762
平成3年	132	7	125	562	926,874
平成6年	129	5	124	622	900,978
平成9年	123	7	116	736	1,227,171
平成11年	115	4	111	715	1,095,145
平成14年	106	7	99	740	1,287,159
平成16年	105	5	100	766	1,210,193
平成19年	111	11	100	709	1,162,641
平成24年	104	10	94	533	817,576
平成26年	85	7	78	534	898,000

商業のうつりかわり『2017町勢要覧』

すばらしい自然環境に恵まれ、雄大な北アルプスを眺めることのできる池田町には、年間35万人をこえる人々が訪れ、「ハーブセンター」、「大峰高原白樺の森」、「池田町立美術館（北アルプス展望美術館）」などは、特ににぎわっています。さらに町では、2009年（平成21）に「日本で最も美しい村連合」へ加盟するなど、豊かな自然を大事にしつつ町民の心の美しさをもめざした「美しい町づくり」を進めているところです。

他の地域との交流のようす

全国池田サミット（サミットとは代表者の会議のことです。）

1976年(昭和51)、徳島県三好郡池田小学校6年、重清美和さんが夏休みに研究した「全国六つの池田町」が県特選に選ばれました。このことがきっかけとなって、全国の六つの池田町（北海道・福井・岐阜・徳島・香川の池田町）への関心が高まり、お互いの町を広報で紹介し合うなどして交流が始ま



昭和63年 第4回池田サミットのようす

りました。1985年(昭和60)、六つの池田町から町長や代表者が集まって第1回池田サミットが香川県の池田町で開かれました。昭和63年には、大阪府の池田市が加わり、七つの池田町（市）で毎年順番にサミットが開かれるようになりました。池田町では1988年(昭和63)8月、第4回全国サミットが開かれています。

全国の池田町がそれぞれ特徴のある品物を売りあったり、お互いに訪問して勉強しあったりしました。また、スポーツの交流もしたりして、それぞれの町が発展するためにいろいろなとりくみをしてきました。しかし、平成11年から全国で市町村の合併がすすみ、いくつかの池田町で町の名まえが変わってしまいました。そこで、2005年(平成17)の第21回を最後に池田サミットは終わることになりました。

横浜市岡村西部連合自治会との交流

1993年(平成5)に横浜市磯子区岡村西部連合自治会と池田町との間で、お互い仲よく交流していきましょうという約束をしました。毎年交代で子どもたちが訪問しあったり、両方のお祭りに参加しあったりしています。また、災害があったときにはお互いに助け合うことも約束し



平成30年 25周年記念式典

ています。そのほかにも、池田町では、「山と緑の体験交流」、磯子区では、「海と都市の体験交流」などしています。平成20年には、交流15周年を記念して、池田小学校と岡村小学校、会染小学校と藤の木小学校が姉妹校の約束を結びました。平成30年には、25周年記念式典が、池田町で開かれました。

中山竹通選手とあづみ野池田ハーフマラソン大会



中山選手の活躍

中山竹通選手の主な成績

年・月	大会名	場所	記録	順位等
昭59・12	福岡国際マラソン	福岡	2時間10分00秒	優勝
60・4	ワールドカップマラソン	広島	2時間08分15秒	2位 (当時日本最高記録)
60・9	ソウル国際マラソン	ソウル	2時間10分09秒	優勝
61・10	ソウルアジア大会	ソウル	2時間08分21秒	優勝
62・07	ワールドカップ(1万m)	ヘルシンキ	27分35秒33	3位 (当時日本最高記録)
62・12	福岡国際マラソン	福岡	2時間08分18秒	優勝
63・10	ソウルオリンピック	ソウル	2時間11分05秒	4位
平2・2	東京国際マラソン	東京	2時間10分57秒	優勝
4・8	バルセロナオリンピック	バルセロナ	2時間11分05秒	4位

池田町広津出身の中山選手は、1984年(昭和59)23歳のとき、福岡国際マラソンで世界の強い選手をやぶって優勝しました。中山選手はその後も活躍^{かつやく}を続け、マラソン優勝5回、1万メートルで日本新記録、1988年(昭和63)のソウルオリンピックと平成4年のバルセロナオリンピックでともに4位に入賞するなどすばらしい活躍をしました。

池田町では、1988年(昭和63)名誉町民第1号としてたたえられました。また中山選手の活躍を記念して県内外からも大勢の選手が参加しての「あづみ野池田ハーフマラソン大会」を開催^{かいさい}してきました。20年以上続いてきたマラソン大会ですが、参加者の減少や大会を行うのに必要なお金の問題などいくつかの理由から2010年(平成22)の第21回をもって止めることになりました。

近くの市町村とのむすびつき

池田町だけで行うよりも、近くの市町村と協力して行った方が有利なことがあります。たとえば、1965年(昭和40)に松川村と共同で学校給食センターが池田小学校の敷地内に造られました。その後1981年(昭和56)に、池田工業高校西側に給食センターが建てられ、この給食センターも30年がたち、建物や調理機器が古くなってきたので、松川村と池田町の話し合いの末、2013年(平成



池田松川学校給食センター

25) に新しい給食センターが松川中学校内に建てられ、池田・松川5校の子どもたちに給食が届けられています。またお年寄りのお世話をする施設、消防、ごみ処理、葬^{そう}祭センター(火葬^{かそうじょう}場)などの施設も、大町・北安曇の市町村や安曇野市と共同で建てて運営しています。



南部消防署



葬祭センター

5 池田町にのこる主な文化を知らう

文化は、それぞれの時代に生きた人たちが、生活を高めるために、心を働かせ工夫して創りだしたものです。日本の各地域には、それぞれ独特の文化が生まれています。池田町には、どのような文化が産みだされているのでしょうか。

池田町にのこる主な文化財

古くから、人々はあらゆるものを神や仏として敬い、世の中の平安を願ってきました。そして、集落や家に神仏を祀り、それぞれ祭日をさだめて祭事がとりおこなわれ、現在に受け継がれています。池田にも神社や寺院などが大事に奉られ、人々の心のよりどころとなっています。



● 八幡神社 (池田)

役場の南に位置し、池田町区の産土神（町民の生れた土地を守る神）として祭祀されている。八幡神社と十二社の本殿は町の文化財に指定されています。また、神社にある絵馬や佐久間象山の筆による大幟の原本も町の文化財に指定されています。



● 池田見諏訪神社 (池田見南部)

池田見諏訪神社の社殿は、三間社流造で大隅流の彫刻で飾られ町の文化財に指定されています。1811年(文化8)大工棟 梁村岡直四郎の作です。祭神は建御名方の命です。



● 毘沙門天立像(広津 梅の尾)

毘沙門天像は、平安中期の作といわれ池田町唯一の県文化財に指定されています。毘沙門天は別名多聞天ともいい、仏を守る四天王の一尊で北方を守る天王といわれています。もとは、長尾のお堂にありましたが集落がなくなったり地滑りにあったりして、今の場所に移されました。



● 役居門

八幡神社社務所東に据えられている役居門は、旧松本藩代官所「お他屋」の門で、江戸期の建築遺構です。



阿弥陀如来立像



如意輪観音坐像

● 浄念寺 (池田)

浄念寺は明治に再興され、本堂には木食山居作の等身大の仏像が安置されています。仁科33番札所の26番の寺です。

現在安置されている本尊の阿弥陀如来像と如意輪観音像は町の文化財に指定されています。



● 長福寺 (滝沢七五三掛) 釈迦涅槃部分図

長福寺は明治に再興され、本堂には本山直末の額が掲げられています。



禁制札

● 成就院 (広津)

成就院は明治に復興され、御朱印状案をはじめ1583年(天正11)以来の書状が数多く保存されています。仁科33番札所の23番の寺です。

文化をのこした主な人々

「てるてるぼうず」のメロディーが響く池田町は、古くから多くの漢学者や国学者・歌人・俳人などのかかわりが深く数多くの文学碑があります。

これらの碑は、時代を越えて後世まで語り継がれ、新しい時代を生きる人々に地域の歴史を語るとともに、これからの時代を切り開いていくときの道しるべともなっています。

◆ 杉山巢雲 (1764—1834)

池田学問所の初代の先生を勤めた杉山巢雲は、1764年(明和8)松本藩の棒術師範である松井津太夫の二男として松本に生まれました。幼いころから学問や武術をよく学び、人としてのたしなみと力をつけてきました。

25歳の時、祖父の「杉山」姓を継ぎ、池田学問所の初代の先生として池田に招かれました。

池田学問所には46年間つとめ、池田の子どもたちの教育に一生をささげ、池田の文化の向上に尽くされました。

1834年(天保5)8月2日、学問所の塾舎で永い眠りにつきました。71歳でした。

在職中の1828年(文政11)巢雲の教えを受けた人々によって、池



杉山巢雲とその弟子の像

田八幡社境内に^{じゅひ}寿碑（記念の碑）が建てられ、1968年(昭和43)には、社務所の横に新たに寿碑が建てられました。

◆^{うちやま まゆみ}内山真弓（1786—1852）

^{しきしま}敷島の道はあまりに広ければ 道とも知らで人や行くらん （内山真弓）

この短歌の作者、内山真弓は江戸時代の国学者で歌人です。真弓は、1786年(天明6)会染十日市場に生まれました。14歳で池田学問所に入り、杉山巢雲のもとで書道や中国の古典を学びました。

真弓はめきめきと力をつけ、その上^{じょうたつ}達ぶりは目を見張るほどでした。

25歳で京都に出て、当時 短歌の第一人者といわれた^{かがわかげき}香川景樹のもとで短歌を学びました。

その頃、池田学問所では^{おんし}恩師の巢雲が亡くなり、困った村人たちは真弓を先生として迎えることになりました。真弓は故郷^{もと}へ戻り、49歳で池田学問所の二代目の先生として恩師の教えを引き^つ継いで熱心に子どもたちの教育に^{はげ}励みました。

その後、真弓は学問所の仕事を^{ともなりちから}友成主税に託し、江戸に出て更に短歌の研究に打ち込みました。57歳の時、松本和田に招かれて、書道や短歌を教えたり畑仕事や花づくりなどをしながら子どもたちの教育に^{そそ}力を注ぎました。1852年(嘉永5)病を^{わずら}患い十日市場に^{もと}戻りますが、5月に永い眠りにつきました。



◆^{おぎわらせいせんすい}荻原井泉水（1884—1976）

人生の有明 つばくろのごとき 父なりし （荻原井泉水）

^{がん か}眼下に池田の町並みを見下ろし、安曇野の^{でんえん}田園が広がる中島地区の一角に荻原井泉水のこの句碑があります。

井泉水は、1884年(明治17)東京に生まれました。父は池田町中島出身で、東京生まれの井泉水にとっては父の^{いなか}田舎である池田は心のふるさとでした。

中学生のころから俳句をつくり、大学卒業後は『東京時事新報』の^{はいだん}俳壇を担当しながら、俳句についての新しい考えを発表しました。それまでの俳句は^{きご}季語や五七五の^{かた}型をもとにつくられていましたが、井泉水はこれらの型にとらわれないで思いのままに自由に俳句をつくり人々に広めていきました。このような俳句を自由律俳句^{りつ}といいます。



1965年(昭和40)には、日本芸術院会員となり文化功労章を受章しました。1976年(昭和51)92歳の生涯を終わるまで、俳句集や新俳句論、随筆や紀行文、書画などの制作に力を注ぎました。

◆ 島木赤彦 (1876—1926)

この町の家ひくくして道広し 雪の山々あらわにし見ゆ (島木赤彦)

諏訪に生まれた赤彦は、長野師範学校卒業後、1898年(明治31)4月に池田会染尋常高等小学校の先生として池田に赴任しました。大そう情熱的な先生で、当時まだめづらしかった野球やテニスを子どもたちに教えました。明治30年代は日本各地でスポーツが盛んになってきたころで、赤彦は池田に初めて野球を広めました。また、一人ひとりの個性を生かした教育を行うために、子どもたちの様子を細かく記録した生徒経歴簿をつくり指導に活かしました。



島木赤彦
『写真が語る池田町誌』

赤彦が勤めたのは2年ほどでしたが、子ども達の心にしっかりと教を残しました。

上記の歌は、赤彦が池田の町を詠んだものです。赤彦の教えを受けた人々が中心になり、1953年(昭和28)に池田八幡神社境内にこの歌碑が建てられました。

◆ 岡 麓 (1877—1951)

夏消えぬ雪のたか山やや遠に しばしば見とも常あかなくに (岡麓)

正岡子規の直弟子で、アララギ派の歌人 岡麓は、1945年(昭和20)5月、東京の戦火をのがれて池田に疎開し内鎌に住まいをおきました。滞在中、夫人と愛娘を相次いで失い自らも1951年(昭和26)75年の生涯を終えました。池田に住んだのは7年ほどでしたが、多くの困難に遭いながらも地域の人々に短歌や書道の手ほどきをし、町の文化向上に力を尽くしました。麓の功績をたたえた歌碑や「内鎌草庵」などが残されています。



岡 麓
『写真が語る池田町誌』

◆ 浅原六朗 (1895—1977)

てるてる坊主てる坊主 あした天気にしておくれ
いつかの夢の空のように 晴れたら金の鈴あげよ (浅原六朗)

この歌を作詞した浅原六朗は、1895年(明治28)池田町に生まれました。父は、造り酒屋を営んでいましたが家の事情で六朗が5歳の時一家は上京することになりました。六朗は八坂村の叔母の家に13歳まであずけられ、その後 家族が住む福島県にうつりました。

24歳で大学を卒業し、実業之日本社へ入り『少女の友』の編集責任者になりました。『婦人世界』や『実業之日本』の記者をしながら、同人誌『十三人』を発行するなどして多くの作家と交流し文学の道を歩んでいきました。

童謡「てるてる坊主」は、1921年(大正10)に『少女の友』に発表されました。作曲は中山晋平で、この歌は日本中の子どもたちに好んでよく歌われました。六朗が作詞した童謡はこの一曲だけですが、大正から昭和にかけて新興芸術派の代表的作家として当時の文学界に新風を起こしました。

その後 俳句集を出版したり、大学の教授としても活躍し1977年(昭和52)82歳で生涯を閉じました。

1963年(昭和38)には、町の有志の方々の力で童謡歌碑が建てられました。1982年(昭和57)には、からかさの形をした屋根の「浅原六朗文学記念館」が開館し、浅原文学を研究したり理解したりする場として来館者に親しまれています。



浅原六朗
『写真が語る池田町誌』

覚えておきたい池田ゆかりの文化人の俳句・短歌

- | | |
|------------------------------------|-------|
| ・「みがけただ みがけば光る玉ほこの 道の中なる道を尋ねて」 | 杉山 巢雲 |
| ・「敷島の道はあまりにひろければ 道とも知らで人やゆくらん」 | 内山 真弓 |
| ・「久方の天の岩戸のあけしより くもいにのこるありあけの山」 | 香川 景樹 |
| ・「この町の家ひくくして道広し 雪の山々あらわにし見ゆ」 | 島木 赤彦 |
| ・「秋はまだ浅しと云えども渋田見の 里に色づく渋柿の味」 | 島木 赤彦 |
| ・「夏消えぬ雪のたか山やや遠に しばしば見ともつねあかなくに」 | 岡 麓 |
| ・「わき水の浅井のそののみえすきて 雨そそげども にごらざりけり」 | 岡 麓 |
| ・「人生のこと 愉しく 哀しく 美しく 春夏秋冬」 | 浅原 六朗 |
| ・「人生の有明 つばくらのごとき 父なりし」 | 荻原井泉水 |
| ・「燕岳とつばめ飛ぶ 安曇野はひろし」 | 荻原井泉水 |
| ・「墨染のそれとまかへと牡丹花の むらさきにほふおほろなる月」 | 斎藤 瀏 |
| ・「やまくにのはるの遠さよゆふそらは 燃えておもひをふかむるらしも」 | 斎藤 史 |
| ・「足もとへ もや吹きつけて ほととぎす」 | 長谷川白鷺 |
| ・「西原に引き上げ家族の家たちて ともしびの見え牛の声する」 | 桂川 正雄 |

池田町の民話

十針落とし

昔、白駒城（池田陸郷）に樋口行時というお殿さまがおりました。お殿さまは、かねがねお城の後継ぎがほしいと願っていましたが、奥方のふじ女にはなかなか子どもが授かりませんでした。そこで、お殿さまはきよ女を迎え、子どもを産んでもらうことにしました。お殿さまの後継ぎを産んだきよ女は、おりあらば奥方のふじ女を亡きものにしようと、その機会をねらっておりました。



春になり、お殿さまは城の者たちと白駒橋のあたりでお花見の会を開きました。このときとばかりに、きよ女はふじ女を誘い出し橋のたもとまでやってきました。ふじ女も、きよ女の企みに気付いていましたので、こっそりと自分の着物の袂ときよ女の着物の袂を十針ほど縫い合わせておきました。

それとも知らないきよ女は、なおもふじ女を誘い橋の中ほどに来たとき「えい。」とばかりにふじ女を突き落としてしまいました。ところが、きよ女もふじ女の袂に引かれて二人とも断崖絶壁をもんどりうちながら深い谷底へと落ちていきました。お殿さまは一度に二人を亡くし深い悲しみにくれておりました。

しかし、二人がいがみあうわけが自分にあったことを悟ると城主を退くことにしました。そして、仏門に入り二人の霊を慰めたということです。

大峯のタヌキ

昔、大峯山にはタヌキがたくさん住んでおりました。里へ出てきては畑を荒すので村の人はたいへん困っておりました。とくに、そば畑は刈り取りのころになるといつも喰い荒らされてほとんど全滅というありさまでした。

毎年こんなことが続くので、村の人たちは番人小屋を作って交替で見張ることにしました。



重市が見張り番に立った時のことです。重市は村でも評判の曲がったことのきらいな人でした。重市が見張り番をしていると隣の久作がやってきて「お前の親父さんが急に具合悪くなって死にそうだ。早く帰ってやれ。」と言いました。しかし、重市は「俺の役目を止めることはできない。」と言って見張り番を続けていました。

しばらくたって、今度は重市のおじさんが来て「お前のおとっさまが死んだで、さあ家へけえってくれ。」と言いまし

た。しかし、重市は何と言われても家へ帰ろうとしません。仕方なくおじさんは、ここで葬式そうしきをすることにしました。葬式の列れつが小屋まで来て、棺桶かんおけを置いて帰って行きました。重市が棺桶を持ちあげ小屋のそばで燃やし始めると、中から白い着物きものがぴょんと飛び出し藪やぶの中へ転がり落ちました。重市は急いで布団ふとんをかぶせて縛しばっておきました。

やがて、夜も明け「今日は親父おやじの葬式そうしきだ。」と言って、布団ふとんの包みをついで山を下りました。家の前まで来ると、死んだはずのおとっさまが川で顔かおを洗あらっているではありませんか。重市は驚おどろいて、担かついできた布団をおろしてみると、中から大きなタヌキが出てきました。そこでようやくタヌキに化かばされていたことに気がつきました。

おとっさまは、重市が畑の見張りをしっかりやったことを大そう喜よろこび、タヌキをていねいに吊とむらいました。それからは大峯にはタヌキが一匹びきも出なくなったということです。

出典 信州児童文学会編『安曇野の民話』

『信州の民話伝説集成（中信編）』



◇ 池田町の民話（『あづみ野 池田の民話』（平成3）より）

- | | |
|--|--|
| □ 天白 <small>てんぱく</small> の森（中之郷） | □ 顔なぜ（浪田見） |
| □ 子安地蔵 <small>こやすじぞう</small> （浪田見） | □ ままっ子おとし（田の入り） |
| □ 滝 <small>たき</small> の沢権現 <small>さわごんげん</small> のお鉢掘り（滝沢） | □ 白ギツネ（八代） |
| □ 久兵衛 <small>きゅうべゑ</small> と六部 <small>ろくぶ</small> （林中） | □ 八幡原 <small>はちまんばら</small> の供養塔 <small>くようとう</small> （豊町） |
| □ 端 <small>はし</small> のつめ（豊町） | □ 如意輪観音 <small>にょいりんかんのん</small> （豊町） |
| □ 幻 <small>まぼろし</small> の若松城 <small>わかまつじょう</small> （二丁目） | □ 常光院薬師 <small>じょうこういんやくし</small> の手（二丁目） |
| □ 三人の若者 <small>わかもの</small> （三丁目） | □ 花見 <small>けみ</small> の力持ち（花見） |
| □ 長福寺 <small>ちやうふくじ</small> の和尚 <small>おしょう</small> さん（花見） | □ 登波離 <small>とばり</small> おとし（有明） |
| □ 長者 <small>ちやうじゃ</small> ヶ池 <small>がいは</small> 観音堂 <small>いけおんのどう</small> （相道寺） | □ 舟 <small>ふね</small> つなぎの木（半在家） |
| □ 水 <small>みづ</small> のかれた大池 <small>おおいけ</small> （法道） | □ 人身御供 <small>ひとみごくう</small> （中の貝） |
| □ デエラボッチの涙 <small>なみだ</small> （堀の内） | □ 岡崎おどり（正科） |



□ 泉小太郎いずみこたろう（十日市場川会神社）

◇ 方言が面白い ～調べてみよう～

* どのくらい意味がわかりますか？（安曇野方言カルタより）

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| ○ あんじゃねえ よもてえけんども こんくれは | ○ いいどこじゃねえ あがっとくれや おしげなく |
| ○ うまかったずらい ゆるりばたでの やきもちは | ○ ええげえし あしたどうずら おらんとこ |
| ○ おどけるじゃん でけえこえだして なんしただい | ○ しゃらっこすい しゃしらんかおして かおそむけ |
| ○ ずくだして くるまはやめて えんでかず | ○ そのいとに けえってくるよ あんじゃねえ |
| ○ ちょんこずき ひとさまのめえで じょけてみせ | ○ でんぐるま あだじゃなくて てきねえわい |

池田町指定文化財一覧

名 称	指定年月日	指定 番号	所 在 地	備 考
1. 役 居 門	S 45・4・1	3	池田三丁目八幡神社	
2. 池田八幡神社社殿	〃	9	〃	
3. 池田八幡神社相殿十二社社殿	〃	10	〃	
4. 渋田見諏訪神社本殿	S 59・4・1	30	会 染 渋 田 見	
5. 林泉寺稻荷社殿	H 11・6・20	35	池 田 吾 妻 町	
6. 毘沙門天立像	S 45・4・1	2	広 津 拇 ノ 尾	S 52・11・17長野県指定
7. 木造阿弥陀如来坐像	〃	7	広 津 北 足 沼	
8. 木造釈迦如来坐像	〃	8	〃	
9. 木造如意輪観音坐像	H 7・9・28	31	池田三丁目浄念寺	
10. 木造阿弥陀如来立像	〃	32	〃	
11. 木造不動明王立像	H 11・6・20	36	池 田 吾 妻 町	
12. 石造百体仏像	S 45・4・1	5	広 津 北 足 沼	
13. 杉山巢雲一家の墓碑	〃	6	池 田 一 丁 目	
14. 鬼の釜古墳	〃	12	池 田 堀 之 内	
15. 相道寺焼窯跡	S 51・9・1	15	会 染 相 道 寺	
16. 相道寺焼神器	S 45・4・1	1	〃	
17. 内山家検地帳	S 51・9・1	17	会 染 十 日 市 場	
18. 矢口家検地帳	〃	19	中 鵜 鵜 山	
19. 内山真弓書大幟	〃	20	〃	
20. 佐久間象山書大幟原本	S 45・4・1	11	池田三丁目八幡神社	
21. 成就院古文書	H 11・2・22	34	広津平出成就院	
22. 弘化四年善光寺地震池田組大絵図	S 51・9・1	19	中 鵜 中 之 郷	
23. 紙本釈迦涅槃図	H 7・9・28	33	会 染 滝 沢 長 福 寺	
24. 池田八幡神社の絵馬	S 53・4・1	29	池田三丁目八幡神社	
25. 八代神明宮の棟札	H 13・3・16	37	陸 郷 八 代	
26. 成就院のしだれ桜	S 47・2・5	13	広津平出成就院	
27. 菅ノ田の姫杉	〃	22	広 津 菅 ノ 田	
28. 渋田見城山の落葉松	〃	28	会 染 渋 田 見	
29. 岡麓終焉の家	H 16・3・25	38	会 染 内 鎌	
30. 滝の台遺跡 やりがんな	H 23・9・28	39	会 染 滝 の 台	
31. 池田八幡神社 祭礼	R 1・8・23	40	池田三丁目八幡神社	無形民俗文化財

令和元年9月現在

★池田かるた

仁科 宗一郎・仁科 惇 製作・解説

一九九四年四月一日発行

① 池田町 発祥元町 御陵の木
 ② 六朗の てるてる坊主 時を告げ
 ③ 八幡社 山車にどよめく 秋祭
 ④ にぎやかに 人と物資の 池田宿
 ⑤ ほのぼのと 気品ただよ 菖蒲園
 ⑥ 平和像 守れ戦火の ない地球
 ⑦ ともどもに 池田サミット 栄あれ
 ⑧ 長者池 白駒城の 家老邸
 ⑨ 林泉寺 稲荷の造り 比類なし
 ⑩ 額塚や 鬼の釜あり 古墳群
 ⑪ 類焼を 防ぐ火屋堀 江戸の知恵
 ⑫ 雄々しくも 泉小太郎 竜に乗り
 ⑬ 若松城 名のみ残した 大遺構
 ⑭ 川会の 社 延喜の 記に光る
 ⑮ 世を 変える 代官岡郷 せき開き
 ⑯ 滝の沢 剣摺鉢に 雨を乞う
 ⑰ 列をなす 百体仏に 谷の風
 ⑱ それぞれに 出入りを守る 観音像
 ⑲ 榎の尾の 名を輝かす 毘沙門天
 ⑳ 寝もやらず 植林学事に 小沢翁
 ㉑ 夏空に アルプスの雪 けがれなし
 ㉒ 頼山陽 巢雲たたえ 寿碑残す
 ㉓ 宗重が 開き築いた 池田町



【解説】

○池田町発祥元町御陵の木

池田町の発祥は、今からおよそ五百五十年前の室町時代前後、文安元年（一四四四）中島城主池田十郎藤重によつて開かれたといわれる。現在の農村グランドのあたりを元町と言い、そこにあつた御陵の木（別に五葉の木とも言われ、真柏の古木）が、長い間発祥地の象徴とされていた。東の「柳原たんぼ」と言われたように、古くから開拓されたことがうかがえる。

① 移ろいを 流れが語る 高瀬川
 ② 居ずまいを 正して真弓 歌の道
 ③ のみの牙え 淡田見諏訪社 立川流
 ④ 大峰の 白かば林 せみしぐれ
 ⑤ 草の庵 歌と書を生む 岡麓
 ⑥ 薬師仏 両手に残す 慈悲と愛
 ⑦ 満快の 石碑おおう 蔦紅葉
 ⑧ 花見山の きじ人生を 変えにけり
 ⑨ 故郷の 心を託す 俳句坂
 ⑩ 古久庄の 繭蔵酒蔵 男山
 ⑪ 縁結び やすでふかれた 道祖神
 ⑫ 手提げ板 叩き冬空 鳥を追う
 ⑬ 吾妻座と 栄座文化 娯楽の座
 ⑭ 前科の 名は朽ちるなし 正倉院
 ⑮ 久兵衛の まことに通う 六部塚
 ⑯ 夢乗せて 池田鉄道 十二年
 ⑰ めずるほど 岡崎踊り 味深し
 ⑱ 瑞穂垂る みやけの馬の 都行き
 ⑲ 白駒の 谷に悲恋の 山桜
 ⑳ 描こうよ 祖先の夢を 平成に
 ㉑ 人びとの 夢で開いた 学問所
 ㉒ もくもくと 町を支えた 糸繰女
 ㉓ 世情知る 幽谷雑誌 嚶々社
 ㉔ 陶を焼く 暮らしの煙 相道寺
 ㉕ 運よりは 努力のすえの 大成果

【あとがき】

このかるたは、もともと大変個人的な意図から生まれました。父（宗一郎）が九十歳を迎え、なにか卒寿の祝いしようと考えたとき、思い浮かんだのが父の歴史かるたの事でした。愛郷精神一杯の父は、かつて『池田町史話』をまとめたところ、それを要約するような意味で池田町の歴史を『いろはかるた』にまとめたことがありました。それを形にして記念にしようというのが動機でした。形にする以上少しはまとまったものになろうということ、読み札の改訂や解説を付け加えることになり、父との共同作業となりました。ついでに絵札の絵も描いたらということ、久しぶりに震える手で父が基本のイメージを描きました。

一九九四年三月

仁科 惇

町民が安心して住める町



これからの社会は、「少^{しょう}子^し高^{こう}齢^{れい}社会」といって、若い人の数が少なくなり、高い年齢の人の数が増えてきます。また、「核^{かく}家族」といって、若い世帯^{せたい}と年配者世帯^{ねんぱいしゃ}が別れて暮らす家が増えてきています。そうすると、病気をしたり介護^{かいご}したりする人が高齢になることが多くなります。人は、いつまでも健康で元気でいることはありません。介護する人がいないときなどどうすればよいのでしょうか。

池田町では、0歳から18歳までの若い人たちに健やかに育ってもらうための方針をたてて、健康のこと、学びのことなどを大切に考えて取り組んでいます。高齢の方々のお世話をする福祉^{ふくし}や介護のことなどにも積極的に取り組んでいます。

また、町民が安心して過ごせるための、防災や交通事故にあわないための取り組みをしています。みなさんは、そのことをよく知って、協力できることには積極的に協力するようにしましょう。そして、よりいっそう明かるく、住みよい町にしていきたいものです。

1 地域のとりくみ

消防団と連携した地域防災組織

わたしたちは、毎日、安全で安心して暮らせた
らいいですね。そのために池田町には、消防団が
組織されています。消防団員は、普段の仕事など
のほかに、ボランティアとして私たちの命や建物
などを24時間体制で、全ての災害から守ってくれ
ています。毎月15日は、団員が各地区の消防詰所
に集まり、夜まわりや消火栓に異常がないか点検
をし、火災などが起こらないように活動していま
す。



自主防災会による放水訓練
日頃からの訓練は大事です

団員数は230名、平均年齢は35歳（平成30）です。最近では、子どもの生まれる数が年々減っ
てきました。そのため、消防団員の確保も難しくなっています。そんな中、女性消防隊員が平
成19年4月に誕生しました。隊員は地域の人たちが災害にあわないようにと、呼びかけをお
こない、災害時には、炊き出しなどの仕事をしています。これからは更に、初期消火など男性
団員とともに女性団員の活躍が期待されます。

また、池田町には、各自治会で組織された「自主防災会」があります。この組織は、地震や
火災などの災害が起こった場合に、地域の人たちみんなで助け合うことができるようにと、平
成16年10月を初めとして33の全自治会でつくられたものです。防災会では、防災倉庫や大きな
テント、担架、発電機などの防災用品を整え、毎年「いざ」という時のために、「避難する。

伝達する。消火する。救護する。」などの各訓練
を行っています。



女性消防隊による炊き出し

地域防災は、一人ひとりが「助け合う心」を持
つことが大切です。そして、地域の人たちが「力
を合わせる」ことも大事なことです。日ごろの近
所の付き合いを大切に「つながり」をもって、万
が一にそなえることがこれからの地域防災のあり
方です。

自然災害を予測した地図（池田町ハザードマップ）

池田町は緑豊かで自然がたくさん残るところです。地形は、南北に高瀬川が走り、町の面積の3分の1が平たん地、3分の2が山間地となっています。

自然災害は、比較的少ない地域ですが、過去には高瀬川がはん濫して家屋が流されたり、広津地区や陸郷地区では地滑り災害が発生したりしました。更に今後は、糸魚川から静岡までつながる活断層による地震の被害が心配されています。

池田町ハザードマップは、自然災害の被害を予測して、その被害がどのくらいになるのかを図面にあらわしたものです。この地図には、災害が発生しやすい具体的な場所や範囲がしめされています。

町では、危険な箇所は予め国や県の指定を受けて、わたしたちが被害にあわないようにしながら、堤防や道路などを直ぐに復旧できるようにしています。

高瀬川には、水害にならないように堤防が整備されています。堤防の周辺は、土や石を勝手に動かさないように河川保全区域を設けています。これは、堤防を守ったり、堤防が切れたりした場合など直ぐに応急手立てをするために設けているものです。また、広津や陸郷地区には、雨が降ると土が柔らかくなり地滑りが起こりやすいため、砂防指定地や地滑り防止区域が指定されています。そのほか東山には、急傾斜地や多量に雨がふった場合に予想される土砂被害を想定した土砂災害警戒区域が設けられています。

わたしたちは、「自然の力」には勝つことはできませんが、被害を予測して避難することはできます。そのために、自分たちの地域にどんな危険があるのか十分調べておく必要があります。



池田町ハザードマップ

自治会活動

みなさんが思う「住みよい地域」とはどんな地域でしょうか。

わたしたちが安心して遊んだり、学んだりできるといいですね。また、兄弟や姉妹、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんもなんの心配もしないで毎日笑顔で暮らしができるといいですね。さらに普段からあいさつをかわして、お互いに支えあえる近所のつきあいがあるといいですね。

地域社会は、みんなが支えあって暮らし、つながりを持ちあう大切な場所です。ここで心豊かに生きて行くためには、地域で暮らす一人ひとりが地域を大事にする気持ちを持つことが必要です。最近では、地域のつながりが弱くなっています。しかし、みんなが生活をするうえで、ゴミ処理などの環境の問題、高齢化に伴う福祉の問題、安全安心な環境づくりなど多くの課題がありますね。これらは全て地域のみんなが協力しないと解決できないものばかりです。そのためにも、自治会は大切な役割を持つことになります。

池田町は、住みよい地域をみんなで作るために、「自助・互助・公助・共助」の4つの役割を分担し、「協働」の町づくりを進めています。

「自助」は、自分や家族でできることを解決することです。

「互助」は、地域住民が力を合わせて解決したり助け合ったりすることです。

「公助」は、地域みんなでできないことを役場などの行政に解決してもらうことです。

「共助」は、社会保険制度や各種サービスができるように、保険料をおさめて支援することです。



元気なまちづくり補助金での道路舗装工事

平成18年、「池田町元気なまちづくり事業補助金」というものができました。地域では、「自分たちの住む地域を自分たちの手で良くしよう」と道路補修や花や木を植えるなど自らの手でこの補助金をつかった自治会活動が続けられています。こうした地域の人たちがみんなで協力していくことが、「協働」の町づくりの1歩となります。

公民館活動をふまえて

公民館はどのような活動をしているところでしょうか。公民館は、地域の人々のために、教育、文化などに関するいろいろな事業^{じぎょう}を行っています。

小学校や中学校での学習と違って、小さな子どもから年配の方まで誰^{だれ}もが参加することができます。ありとあらゆる学習ができることから公民館を「学びの館^{やかた}」ともいいます。また、公民館は、みなさん一人ひとりの学びたいという気持ちを大事にして、心豊かで明るい社会をつくっていただくためにそのお手伝いをしています。

町の公民館は、1948年(昭和23)に初めて池田小学校内の一室^{いつしつ}にできました。当時の館長は小学校の校長先生が兼務^{けんむ}をしていました。そののち、各地域にも分館をつくることができました。昭和35年には、かつて池田町にあった池田警察署に公民館^{うつつ}が移されたこともありましたが、昭和43年12月に役場横に移され、その後、50年の時を経て、2019年に地域交流センターとして新築^{しんちく}された建物で、新たなスタートをきりました。

公民館は、地域の方々からの要望^{ようぼう}を基^{もと}に、地域社会とともに発展してきました。現在、公民館活動の特色ある活動の一つに「新池田学問所」による講座^{こうざ}（塾^{じゅく}）が開かれています。小学校に入学する前の親子を対象とした「家庭教育学級ポレポレ塾」は、すべてにつながる教育の出発点ともいわれ大事な成長期をあつかうため、この講座には、多くのみなさんが参加しています。また、教養^{きょうよう}を高めるために誰もが参加できる「みのり塾」も人気があります。さらに、若者同士の仲間づくりのための「みらい塾」を始め、時代のニーズ^{おう}に応じた「パソコン塾」や「ワイン塾」、「ギター塾」など、多種多様な塾を開き、生涯^{しょうがいの}学習のきっかけづくりに努めています。

このように公民館では、様々な幅広い活動が行われています。また、平成23年度にオープンした「池田町町民活動サポートセンター」では、個人や団体で自分の趣味^{しゅみ}や「いきがい」づくりのため、また活動のための仲間づくりをしたいという方のために、的確^{てきかく}なアドバイスをする「支援^{しえん}」をしています。

一方、地域の分館では、ミニ文化祭やミニ運動会などを開催^{かいさい}したり、会報を作成^{はいふ}して配布したりするなど、自分たちが自ら考え、自らの手で特色ある活動をするところも増えてきました。



公民館活動

2 交通・防犯^{ぼうはん}へのとりくみ

交通事故^{こうつうこうご}や犯罪^{はんざい}のない町をめざして

池田町では、私たちが安心して住めるようにどのような取り組みをしているのでしょうか。町は、交通事故や犯罪件数が他市町村に比べて少ない地域です。「なぜ」だと思いますか。それは、警察、消防団、自治会、学校、PTA、企業^{きぎょう}、行政^{せいぎょう}などあらゆる組織^{そしき}が「事故や犯罪の無い安全で安心して住むことができるように」とみんな^{みんな}で真剣^{しんけん}に考え、工夫をしているからです。

毎年、事故が多くなる春の新入学期や夏、秋の行楽^{こうらく}シーズンで交通量が増える時期に、地元自治会の人たちや交通安全協会の方々^{かいたう}などが街頭に立って、事故にあわないようにとみなさん^{みなさん}を見守^{みまも}ってくれています。学校の周辺では、交通安全指導員のおじさんが、雨の日も風の日も毎日声をかけてくれます。一方、町のみなさんにもよく考えてもらうために「池田町交通安全^{ぼうはん}防犯



池田町交番

町民大会」が開かれています。ここでは、池田町の交通安全や犯罪^{じょうきよう}の状況が報告され、多くの人たちが一緒になって「地域の安全」を考える取り組みをしようと宣言^{せんげん}をしています。

特色ある池田町の取り組みの一つに「青色防犯パトロール（青パト）」があります。これは、平成18年からスタートしました。防犯組合の人たちや役場の職員が毎日、朝と夕方の登下校時



地域の安全を守る青パト

にあわせて全町を青色の回転^{かいてんとう}灯をつけてくまなくまわっています。ちょっとでも不審^{ふしん}に思うことがあれば、記録して犯罪の予防に役立てています。

事故や犯罪のない社会は、私たちみんなの願いであり、みんなで考えるものです。一人ひとりが事故や犯罪にあわない、あわせないためにどのようにしなければならないか、社会全体で考えることが更^{さら}に求められています。

3 みんなが健康でしあわせにくらせるとりくみ

みんなが助け合って生きよう

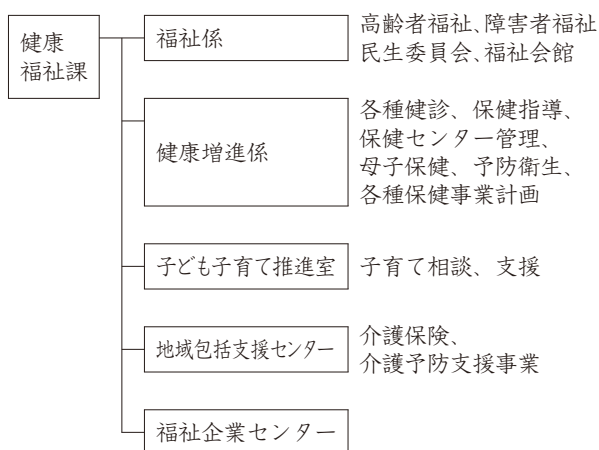
みなさんは少^{しょう}子^し高^{こう}齢^{れい}社会^{しゃかい}という言葉^{ことば}をきいたことがありますか。今、池田町では少子化^{しょうしけ}とい^いって生まれる赤ちゃん^{あかちゃん}の数が減^へってきています（平成29年度は51人）また、みんなが長^{なが}生きするようになり、高^{こう}齢^{れい}化^か率^{りつ}（人口^{じんこう}に占^しめる65歳^{さい}以上の人の割合^{わりがひ}）は、平成29年度は38.4%と約5人に2人が65歳以上ということになります。高^{こう}齢^{れい}になればなるほど体も弱^{よわ}くなり、だれかに手^て伝^{でん}ってもらわなければ、生活^{しやうか}がしにくいという人^{ひと}（寝^ねたきりになったり、障^{しょう}がいを持^もったりする人^{ひと}）が増^ふえ、それを支^さえる若^{わか}い人は逆^{さか}に少^{すく}なくなってい^いきます。わたしたちは、病^び気^きになっても安^{やす}心^{しん}して治^ち療^{りょう}が受^うけられ、体^{てい}が不^ふ自^じ由^{ゆう}になったときに十分^{じゅうぶん}な援^{えん}助^{じょ}が受^うけられるとい^いいです^すね。住^すみ慣^なれた地^ち域^{いき}で暮^くらし続^{つづ}けるには保^ほ健^{けん}・福^ふ祉^し・医^い療^{りょう}がより大^{だい}切^{せつ}になります。

平成12年11月に総^{そう}合^{ごう}福^ふ祉^しセ^さン^たー「やすらぎの郷^{さと}」が建^たてられました。この施^し設^{せつ}は今^{いま}まで町の中に分^わかれていた健^{けん}康^{こう}福^ふ祉^し課^か・保^ほ健^{けん}セ^さン^たー・社^{しゃ}会^{かい}福^ふ祉^し協^{きょう}議^ぎ会^{かい}など^{など}が同^{どう}じフ^ふロ^ろア^あで仕^し事^じをするこ^{こと}によ^よって、赤^{あか}ちゃんからお年^{とし}寄^よりま^まで保^ほ健^{けん}や福^ふ祉^しのサ^さー^さビ^びス^すが受^うけやす^{やす}いようにな^なっています。健^{けん}康^{こう}福^ふ祉^し課^かでは地^ち域^{いき}福^ふ祉^し（民^{みん}生^{せい}児^こ童^{どう}委^い員^{いん}の活^{くわつ}動^{どう}を含^{こめ}て）・低^{てい}所^{しょ}得^{とく}者^{しゃ}・高^{こう}齢^{れい}者^{しゃ}・心^{しん}身^み障^{しょう}がい者^{しゃ}等^らの支^し援^{えん}を行^いっ^てい^います。保^ほ健^{けん}セ^さン^たーは町^{まち}民^{みん}の幸^{しあ}せの基^き本^{ぽん}である健^{けん}康^{こう}づ^くり^りのた^ため^めに事^じ業^{ぎやう}を行^いっ^てい^います。すべ^{すべ}て^ての施^し設^{せつ}が^がつ^つな^なが^がっ^てい^いる^るので利^り用^{よう}しやす^{やす}く^くな^なっ^てい^います。だれでも使^しえ^えるお風^{ふう}呂^{りょ}や会^{かい}議^ぎ室^{しつ}もあ^あり^ります。やすらぎの郷^{さと}の東^{ひがし}隣^{りん}には福^ふ祉^し企^き業^{ぎやう}セ^さン^たー（障^{しょう}がい^{がい}のあ^ある人^{ひと}や所^{しょ}得^{とく}の少^{すく}ない人^{ひと}が働^{はたら}く所^{ところ}）があ^あり^ります。

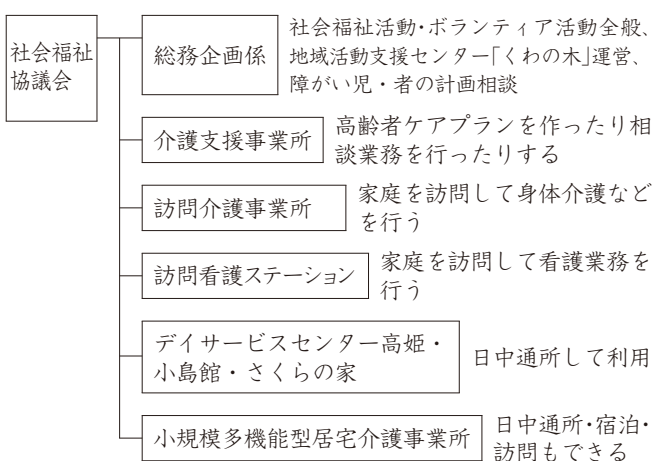


総合福祉センター「やすらぎの郷」

〈池田町役場〉



〈社会福祉協議会〉



みんなが健康で生活できるように—保健予防—

私たちは日々健康で元気な生活を送りたいものです。赤ちゃんからお年よりまでそれぞれの年代にあわせて、病気を予防したり健康な体を作ったりしていくことが大切です。小さい頃お父さんやお母さんに連れられて保健センターへ行き、健診を受けたり、予防接種を受けたりしたことを覚えているでしょう。また、小学校や中学校では、お医者さんが学校に来てくださり、健康診断をおこなっています。



乳幼児健診時の学習の様子



血液検査の結果はどうか

平成20年から国民健康保険（町が事業者）へ加入している人の40歳から74歳を対象に、生活習慣病（食事の欧米化や食べ過ぎ・運動不足などから起こる病気）などを予防する目的で、特定健康診査（血圧測定・身長・体重測定・血液検査・心電図・眼底検査など）を受けることが義務づけられました。体重が多い・血圧が高い・脂質異常症（血液の中に中性脂肪や悪玉コレステロール

などが多いこと）・動脈硬化・高血糖（血液中の糖分が多い）などを早く発見して、心臓病・脳卒中・糖尿病などの予防をしなければなりません。

健診を受けた後、結果説明会を開き、自分の健診結果から自分の生活の悪いところをどう直していったらよいかを保健師・栄養士さんたちと一緒に考え、勉強します。「バランスの良い食事の学習会」や「体操教室」に参加するように誘っています。

平成23年度からは健康診査を受ける機会の少ない20歳～30歳代の人たちに「ヤング健診」が始まりました。若いうちから病気を予防することにより、むだな医療費を減らすこともできます。このほか結核レントゲン検診や癌を早く見つけるための検診（肺・胃・大腸・乳房・子宮・前立腺）などもおこなっています。



体操教室の様子

医療について

みなさんは病気になったとき、お医者さんを受診しますね。池田町には内科4医院（神経科含む）と歯科3医院があります。その他北アルプス医療センターあづみ病院があり、内科・小

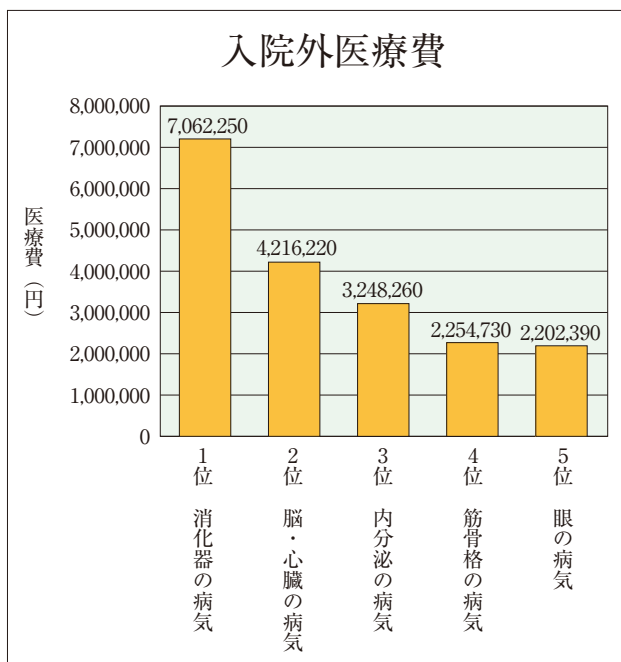
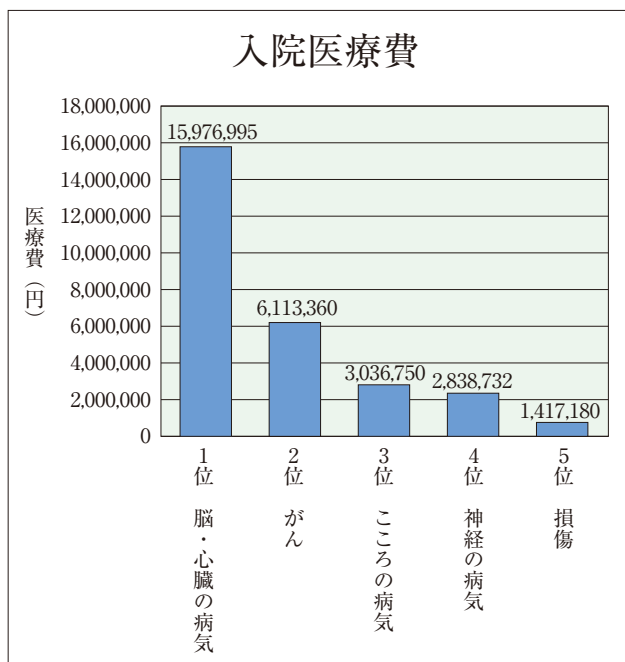


北アルプス医療センター あづみ病院

児科・外科・整形外科・形成外科・歯科口腔外科・眼科・皮膚科・耳鼻咽喉科・精神科・麻酔科など多くの診療科があります。近くに医院・病院があることは安心して生活できます。

どんな病気で医療費が使われているのでしょうか

平成29年度の国民健康保険加入者（0歳～74歳・2,418人）が一年間に使った医療費は1人あたり約37万8千円でした。平成29年5月の1ヶ月間の病気別の医療費については下のグラフのとおりです。（多い順番）



【入院】脳梗塞等脳血管の病気では、1人で100万円以上が数ヶ月かかることもあります。心臓病（虚血性心疾患）では、500万円以上かかった人もいます。

【通院】糖尿病などで腎臓の働きが悪くなり、透析治療（機械をとおして血液をきれいにする）を受けると年間約500万円かかります。

池田町の福祉の取り組み

だれでも年をとったら住み慣れた自分の家で生活したいものですね。平成元年、会社に勤めているお嫁さんから「寝たきりのおばあさんが病院から退院しますが、家で生活させたいので、午前と午後1日2回ホームヘルパーさんに訪問してもらえますか」と要望がありました。そのころヘルパーさんの訪問は1週間～1ヵ月に1回くらいで、身体介護や掃除・洗濯・炊事などが主な仕事でした。女性が仕事を続けながら自分の家で家族を介護するにはどうしたらよいかをみんなで考えました。そして、各家庭を巡回して、身体介護（食事や排泄のお世話など）を中心とした訪問サービスを始めました。相談のあったおばあさんの家へ社会福祉協議会のヘルパーさんが1日2回訪問し、食事や排泄のお世話をしました。おばあさんは最後まで住みなれた自分の家で生活することができました。町内の開業医の先生方も往診するなど協力的で、県内でも早くに取り組んだ事業です。これをきっかけに在宅福祉サービスを利用しようとする考え方が広がっていきました。

平成12年4月、介護保険制度が始まりました。これは40歳以上の方が介護保険料を出し合って、介護を社会全体で支えるしくみです。運営は大北地域の市町村で組織する北アルプス広域連合（大町市）で行っています。高齢者が自分のことができなくなったり、認知症（物忘れや判断することができなくなる病気）で介護が必要になったりしたときに、その状態に応じたサービスが利用



デイサービスで楽しいひととき

できます。相談窓口は総合福祉センターの健康福祉課【地域包括支援センター】（高齢者の生活をサポートするための総合相談窓口）です。介護保険の申請や介護の悩み、介護予防の相談を受けています。

介護を必要とする人が利用する施設として、デイサービス（昼間通って利用する）があります。昼間はこれらの施設で過ごし、夜は自分の家で生活しています。ホームヘルパーの訪問介護（身体介護や家事・調理を行う）、看護師などによる訪問看護（家で生活する療養者の健康状態の観察や助言を行う）を利用している人もいます。介護施設は、特別養護老人ホーム高瀬荘・ライフ、短期入所施設花りんなどがあり町外の施設を利用している人も含めると、平成30年度は約180人が介護施設で生活しています。



特別養護老人ホーム「高瀬荘」

なお、特別養護老人ホーム「高瀬荘」は平成23年11月、五丁目へ移転改築され快適な施設になりました。入所者数80人、短期入所者数8名で、総工事費は約12億円でした。

池田町社会福祉協議会の活動

みなさんは「社会福祉協議会」という名前を聞いたことがありますか。社会福祉協議会は福祉団体で総合福祉センターの中にあります。この会は会員組織で、町民からの会費と寄付金や共同募金・介護保険の介護報酬や町からの補助金・受託金（町から委託された事業経費）などを財源として、「安心して子育てがしたい」、「障がいをもっていても介護が必要な状態になっても、自分らしさを大切に、できる限り住み慣れた家・池田町で暮らし続けたい」という願いの実現を目指し、様々な事業が行われています。

地域福祉事業の一つ、『ようこそ赤ちゃんプレゼント事業』では、高瀬中学校生徒会の牛缶回収活動の収益が寄付され、それをもとに地域の方がプレゼントを手作りし、池田町で生まれた赤ちゃんを地域でお祝いしています。また、ボランティアさんの発案で、まだ使用できる子ども服や育児用品などを、これから使いたい子育て家庭にお譲りするリユース活動『リユースいけだっこ』も始まっています。

介護保険事業としては、訪問介護・訪問看護・デイサービス・小規模多機能型居宅介護事業所などで在宅生活を支援しています。また、障がいがある人が通所して活動する地域活動支援センターも運営されています。

人と人とのつながりを大切にしながら、支え合い・助け合い活動、ボランティア活動を推進するとともに、子どもから高齢者まで幅広い世代と地域の方々と、共に支え合いながら暮らしくみづくりを進めています。



▲ようこそ赤ちゃんプレゼント

《支え合い活動》



▲「サポートてるてる」



▲「ファミリー・サポート・センター」



▲ふれあい・いきいきサロン



▲災害時住民支え合いマップ作成支援

4 みんなで育てよう地域の子ども ―0歳から18歳―

乳幼児からの健康を大切に

生まれた赤ちゃんが健康にすくすくと育つように、町がどんなことをしているのか知っていますか。

池田町では、「子どもは地域の宝である」という考えから、赤ちゃんがおかあさんのおなかの中にいるときから、保健師さんや助産師さん^{じょさんし}が家庭訪問をして、無事に産まれてくるように、生まれてきた赤ちゃんが健やかに育つよう^{すこ}にお手伝いしています。

赤ちゃんは、生まれてきてはじめてわたしたちの住んでいる世界を見るわけですから、見るもの、聞くもの、感じるものすべてがはじめてのことになります。また、おかあさんもはじめての子育てになります。ですから、おかあさんも赤ちゃんが健やかに育つよう^{すこ}に勉強します。

町では、おかあさんが安心して育てることができるよう専門の先生をまねいて、食べ物や運動のことなどを指導^{しど}してもらっています。

また、おかあさんやおうちの方の相談にものっています。

公民館が行っている「家庭教育学級ポレポレ塾」では、保育園にあがる前の子どもたちのために、親子がふれあいを楽しむ会を毎月開いています。町内のほとんどの親子が参加して、体操をしたり、歌を歌ったりしてふれあいを楽しんでいます。

おうちにいても、忙^{いそが}しがっていてなかなか親子のふれあいができない時代だからこそ、この

出産をむかえるころのおかあさん

- ・赤ちゃんがおなかにできたことを届け出る
- ・おなかに赤ちゃんがいるおかあさんに、赤ちゃんについての勉強会
- ・出産
- ・助産師さんが家庭を訪問
- ・民生児童委員さんがお祝いに家庭訪問
- ・親子母子教室
- ・4～5ヶ月・7～8ヶ月・9～10ヶ月健診
- ・1歳3ヶ月・1歳6ヶ月・2歳、3歳児健診
(専門家にみていただいて、必要な場合は病院を紹介することもしています)

ような機会をますます大事にしていてほしいと思います。

楽しい保育園での活動

保育園生活、楽しかったですね。ところで保育園って、いつごろからあったのでしょうか。

池田町の保育園は、昭和20年代後半、広津に季節保育所として、春や秋の農家の忙しいときだけ子どもをあずかったのが始まりです。それから1961年(昭和36)10月広津保育所になり、翌^{よく}



じょうぶに育つように祈^{いの}りながら赤ちゃんマッサージ

年の37年会染保育所、38年に池田保育所（旧 北保育園^{きやう}）、そして53年に、園児が200名を超えたので池田南保育園ができました。同時に池田保育所を北保育園、会染保育所を会染保育園に名前を変えました。

昭和55年には、会染保育園が新しいところに新築^{しんちく}、56年に北保育園が全面改築^{かいちく}しました。

昭和47年には3歳未満児^{みまんじ}の保育を、49年には長時間保育を、と両方とも池田町は県下でも早い時期に始まりました。平成25年、北保育園と南保育園をひとつにして、現在の池田保育園が新築され、平成28年4月より、池田町^{にんてい}認定こども園池田保育園・池田町^{にんてい}認定こども園会染保育園となりました。

保育園では、どんなことが楽しかったのかな。

保育園からは、昔も今も変わらず子どもたちの元気いっぱい^{げんき}の声が聞こえてきます。このように子どもたちが毎日楽しく保育園に行けるの



「つぎは、どこをほろうかな？」

は、おとうさんやおかあさん、先生方や地域の方、町の方々が応援^{おうえん}しているからです。夏祭り、親子遠足、もちつき大会、親子レク、年長さんのお楽しみ会など、先生方だけでは大変なので保護者会^{ほごしゃ}（おとうさんやおかあさんの会）のみなさんが先生方といっしょに用意したり、片付けたりしています。

先生方は、子どもたちができるだけ大ぜいの人に出会って、いろいろなことを学んで幅^{はば}の広い大人になってほしいと、デイサービスや老人ホーム、学校等と交流^{こうりゅう}するなど工夫しています。

また、町では、みなさんが健康でりっぱな大人になるように、健康診断をしたり、おうちの方が子どものことや家庭のことで困ることがあれば、相談にのったり、病院や専門の先生につなげたりするなどの努力をしています。

これからも園から子どもたちの元気な声が聞こえるように、またできたら、園児の数がもっと多くなるような、園や地域になっていってほしいと思っています。

5 小学校・中学校の生活

江戸時代の「池田学問所」始まる池田町の学校は、その時代に必要とされる人材^{じんざい}を育てるために様々な取り組みをし、今日まで変化し続けてきました。平成29年3月には、文部科学省^{もんぶかがくしょう}から、急激^{きゅうげき}に変化している社会で将来生きていくために必要な資質・能力^{ししつのうりょく}として、「知識および理解」「思考力^{しこうりょく}、判断力^{はんだんりょく}、表現力^{ひょうげんりょく}」「学びに向かう力・人間性等」の3つが新しく示され、保育園でも小学校でも中学校でも、それに向けた新たな保育や授業に心がけています。

学校の教育や環境も大きく変化してきています。たとえば、小学校3年生から外国語活動が始まり、5・6年生は英語の学習（新たに読み書き）が始まりました。道徳が特別の教科となりました。コンピュータやタブレットを使った授業もあり、プログラミング学習も始まりました。情報モラル^{じょうほう}の学習もあります。何より、子どもの数が少なくなって、小学校も中学校も、学級^{がく}の数が減ってきました。

それぞれの学校では、どのような生活をしているでしょう。

池田小学校では、花いっぱいの学校をめざし、毎年、花壇^{かだん}づくりや菊などの一人1鉢づくり^{きく}に力を入れています。3～6年生は総合的な学習の時間、1～2年生は生活科の時間を使って校舎^{しゅうへん}の周辺や校内にも美しい花が咲き続けるよう、全校で花の世話に取り組んでいます。中でも、4年生が中心となってつくるメイン花壇は、毎年FBC花壇コンクールで、大賞^{たいしょう}や総務大臣賞^{そうむだいじんしょう}などの大きな賞を何度も受賞^{じゅしょう}してきました。



花壇づくり



メイン花壇

た。働くよさを自ら体験するなかで、美しい花々が咲く喜びを実感しながら、思いやりや優しい心が育ってきている子どもたちです。児童会の緑委員会では、花を育てて「やすらぎの郷^{さと}」などの町内施設^{しせつ}に贈^{おく}ったり、世話をしたりする活動も続けています。

6年生による安曇養護学校小学部^{あづみようごがっこう}のみなさんとの交流も大切な活動として続けています。春には安曇養護学校に出かけ、秋には池田小学校に迎えての交流活動です。こうした活動を通して地域とのつながりを深め、相手を大切に^{つちか}にする心を培うとともに、子どもたち自身がやりがいや成長を実感できる場ともなっています。



児童会の空き缶集め



縦割り清掃

また、児童会では朝、玄関前で全校に向けて「あいさつ運動」に取り組んだり、清美委員会を中心となりアルミ缶やペットボトルキャップ集めなどを行ったりしています。

さらに、本校の活動の特徴として、1年生から6年生までの全校縦割り班による活動があります。毎日の清掃活動や野外活動、全校体育など学校生活のいろいろな活動を縦割り班で行っています。リーダーシップや自主性を発揮する高学年と、信頼し協力して取り組む低学年とがかかわりあいながら、お互いのよさをみつけ、学校全体が絆を深め合っていく姿が見られます。

会染小学校では「自らうごく会染の子」を目標に、全校児童が多くの活動を通してたくさんの学びを体験しています。

まず、わたしたちの朝は元気なあいさつの声で始まります。全校児童が仲よくなるために「あいさつ」に力を入れていて、毎朝「あいさつレンジャー」のみなさんが校内を回ってあいさつをするのは児童会の伝統です。



あいさつレンジャー登場

会染小学校には、昭和58年（1983年）から始められ、現在も大切に続けている、「肥後守活

動」があります。5月の「肥後守に親しむ週間」には、入学したての1年生が肥後守の使い方や鉛筆の削り方を6年生から教わります。毎月の「肥後守タイム」では、全校児童が自慢の一本を削り出したり、肥後守で工作したりします。自分の肥後守を大切に6年生まで使うため、刃を研いだり、「かしめ」の調節をしたりすることも、みんな自分でやっ



6年生が1年生に「肥後守」の使い方指導



桜仙峡あずきの収穫

ています。肥後守活動を通して「自ら動く会染の子」へと育っていく子どもたちの姿が見られます。

会染小学校では、地域の人たちといっしょに多くの活動をしています。陸郷地区りくごうのみなさんと関わりながら地域の特産品である「桜仙峡おうせんきょうあずき」を育てる活動、地域の方に指導していただき5年生が育てている「米作り」の活動、地域で農業を営んでいる田中さんと関わりながら行う「ねぎ作り」の活

動、デイサービスセンター「さくらの家」のみなさんと児童会ふれあい委員との交流などです。地域に目を向け、めあてをもって調べたり考えたりする活動の中で一人一人が自分なりの成長をしています。

高瀬中学校では、総合的な学習の時間『たかせタイム』に、池田町がめざす「日本一美しい町づくり」に向け、中学生として何ができるかという大きなテーマをもち、学年ごと池田町について学びを深めています。

1年生のテーマは「池田を知る」。池田町の自然や歴史、観光などについて自分たちで調べたり、地域の方から学んだりしています。2年生は「池田を体験する」をテーマに、町内の事業所じぎょうしょを中心に職場体験学習しよくばたいけんを行い、働く方々の仕事に向かう姿勢や地域への熱い思いに接しながら、働くことについて学んでいます。3年生のテーマは「池田を発信する」。これまで学習してきたことをもとに、町の魅力について町内外に向けて情報を発信したり、中学生が考える町づくりについて提案したりしています。



2年生の職場体験学習

生徒会活動では、牛乳パックやアルミ缶を集める『牛缶ぎゅうかん』で集めたお金を社会福祉協議会ふくしきょうぎかいに寄付し、赤ちゃんボランティアに役立てています。また、『てすいぼ』では、全校生徒が登校時にゴミを拾い、地域の美化活動に協力しています。



生徒会「ぼいすて」を反対にしたゴミ拾い活動『てすいぼ』

生徒会の最大行事『高瀬祭』では、生徒会活動や『たかせタイム』、文化部の活動発表の他に、体育祭や合唱コンクールがあり、町内の小学6年生や交流のある安曇養護学校の生徒、福祉施設しせつの方を招待しています。

部活動も盛んで、平成30年は11の部が熱心に活動して

います。マナーを守り^{れいぎ}礼儀正しい部員たちの姿は他校からも認められています。一方では、生徒数の減少によりどの部も部員数の確保が難しくなっており、^{さんりんこう}近隣校との合同チームや^{そうごうがた}総合型地域スポーツクラブとの^{れんけい}連携をしながら、限られた活動時間の中で練習内容や練習方法を工夫する^{しゅうかん}習慣を身につける生徒主体の部活動をめざしています。



てるてる坊主10,428個、H 27ギネス記録に認定

県立安曇養護学校には、^{あづみようご}小学部・^{しょうがくぶ}中学部・^{ちゅうがくぶ}高等部などがあり、^{だいほくちいき}大北地域を始め、^{さんりん}近隣の郡市（安曇野市、東筑摩郡、松本市など）から集まる180人の児童・生徒が学んでいます。（高等部は、本校とは別に「^{あづみ}あづみ野^{ぶんきやうしつ}分教室」が豊科にあります。）障がいの程度や一人一人の個性に応じた^{あた}温かみのある教育が行われ、児童・生徒は将来、社会的に自立した生活を送ることができるよう、日々の学習に取り組んでいます。

毎年、10月の第2週には、学校祭『とんぼまつり』が2日間行われます。2日目の一般公開日は、池田町内の方や町外からもたくさんの方が^{おとず}訪れ、児童・生徒の活躍を応援してくださいます。

『とんぼまつり』の発表や^{はんばい}販売活動などを通して、子どもたちは一回りも二回りも大きく成長し、自信を持ちます。

池田町の保育園・小学校・中学校・高等学校の子どもたちとの交流も盛んで、互いの学校を訪問しながらそれぞれの^{ねんれい}年齢^{おう}に応じた活動が、継続的に行われてきました。ともに楽しく遊んだり関わったりするなかで、障がいの「ある」「なし」を超えた^こつながりをもつ子どもたちの姿を見ることができます。

また先生方は、小学校や中学校からの児童・生徒の相談に応じたり、学校や教育委員会の^{そうだん}相談・^{しえん}支援会議などに参加してアドバイスしたりなど、支援を必要としている子どもたちや学校・家庭を^{とくべつ}特別^{しえん}支援教育の^{せんもんてき}専門的な立場から支えています。



学校祭『とんぼまつり』



「交流」

6 地域に根ざした高校

池田町には、池田工業高等学校がありますが、この学校はいつ頃できて、どのような歴史をたどってきているのでしょうか。

池田町は、大北地区の南の方にあり、生活のあらゆる面で古くから穂高や豊科（安曇野市）、松本市との関わりがありました。高校進学においても例外ではありません。多くの生徒が郡外の高校へ進学する中で、地元の池田工業高等学校では、安曇野市、大北地区ただ一つの工業高校として地域の人々の注目を集めています。



農業学校時代の校舎『写真でつづる70年の歩み』より

池田工業高等学校は1921年（大正10）に2年制の町立池田実業補習学校として発足し、以降、北安南部1町6か村組合立池田実科中学校、北安曇農学校と変わっています。戦後、1948年（昭和23）に、北安曇農業高等学校となり、1963年（昭和38）に池田工業高等学校に変わり、現在に至っています。発足当時は、この地域の最も大事な産業で

ある農業の専門家を育てる学校として、また昭和38年からは日本が工業国として発展してきている中、工業技術の基礎を学ぶ高校に変わるなど、常に地元や社会に深く関わりを持った教育に心がけてきています。

では、今この学校ではどんな勉強をしているのでしょうか。

現在、全日制は機械科、電気・情報システム科、建築科の3学科、定時制は普通科で構成されています。また、本校の特色である地域と関わった学習として、池工版デュアルシステム（平成18年県下の高校で初めて）があります。このシステムは、学校が地域の会社や施設と協力して、実際に会社や施設に行ってそこで働いている方々と一緒に仕事をするを通して、すぐに役立つ技術を身につけたり働いている方の仕事についての考え方や人とのかかわり方などを学習したりします。このような実習を年間通して行うのは全国的にも数少なく注目を集めています。また、参加した生徒や受け入れてくださった町内外の会社や施設の方から「これから働く人のために役立つすばらしいシステムだ」とほめてもらっています。このシステムで学んだ人たちを採用する会社も増えており就職にも役立っています。

池田工業高等学校の特色ある学習として、建築科の「池工お助け隊」があります。これまで

地域の方たちの様々な要望に取り組んできました。平成29年度には町からの相談を受け、池田町地域交流センターの模型を制作しました。「池工お助け隊」の活動を通して地域の方たちに喜ばれると同時に生徒も働く喜びを味わうことができるので楽しいと言っています。



「池工お助け隊」の模型制作

また、「高校生ものづくりコンテスト県大会」に参加して技術を競い、優秀な成績を収めています。

また、池田工業高等学校は、大北・安曇地域で唯一の定時制（普通科）を持つ高校です。1948年（昭和23年）に設置され、働きながら学ぶことができる場として重要な役割を果たしてきました。以来70年の歴史のなかで700名あまりの卒業生が、ここ大北・安曇地域を中心に活躍しています。

少人数の家庭的な雰囲気の中で、生徒一人ひとりがしっかりとした目的意識を持ちながら、充実した高校生活の日々を送っています。基礎的・基本的な内容の授業を中心に、毎日の授業を大切にすることはもちろんのこと、学年を越えた集団での様々な活動を通して多くのことがらが学び取れる体験学習も用意しています。学ぶことの喜びを実感し、新たな自分を見つけられる学校となっています。



デュアルシステムの様子

7 新しく開かれた専門学校

大北地区に「高等教育の学びの過疎地域」をつくってはならないという考えのもと、『日本アルプス国際学院』は、2019年4月に旧池田町福祉会館跡地に開かれました。



これからの社会は、グローバル化が大きく進み、同時にAI（人工知能）やIoT（すべての物がインターネットにより繋がらうこと）が加速度的に進み、産業のあり方が大きく変わるといわれている「第4次産業革命」が現実のものになるとしています。

わたしたちが暮らす日本は、人口減少が急速に進み、特に働くことが望まれている年齢層の減少が、深刻な「労働力不足」を引き起こしています。長野県でも人口減少は深刻ですが、特に高等学校を卒業した若者が、首都圏をはじめ県外に流出してしまい、卒業してからのUターン就職率も低いため、人口減少や労働力不足の大きな原因になっています。このような現状を少しでも改善できるように、学院では日本文化や長野県の特性を理解し合い、日本人と外国人と一緒に学び合う、次のような国際性豊かな人材の育成を行います。

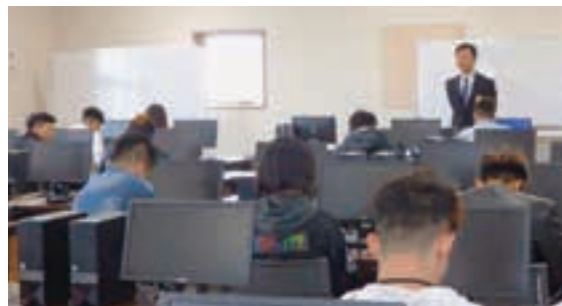
ひとつはIT技術者です。急激に変化する高度情報社会に対応できるIT技術者は、今後数十万人規模で不足すると予測されています。一例ですが、もうすぐ5G（第5世代のスマホ）が本格的に始まり、スマホの利用方法が大きく変わる社会になります。基本ソフトやアプリ、VR（仮想現実）やAR（拡張現実）などのコンテンツ（映像や音楽、匂いや味、触感などすべてを含む）の制作、セキュリティ（ネット、VRやARの安全）の確保、など活躍できる範囲は非常に広がっています。

もうひとつは福祉分野の人材です。急速に進んでいる超高齢社会への対応で、地域の大きな課題でもありますが、福祉分野の人材が非常に不足しています。本学では福祉人材育成のため、地元の介護施設と協力し合い、生きた事例から学ぶことを大切に考えています。人を介護することは、ロボットには当分の間できません。

学院には現在、外国籍の学生が多く在籍しています。

地元にきていただいた大切な人材です。今後は個人的な交流から学校単位の交流まで、様々なかわり合いができると思います。これからの多文化共生時代のよい足掛かりになりますので、

是非積極的に考えてみてください。AIが進化した数十年後には、今わたしたちが知っている仕事の半数以上がロボットやAIに任されることになります。それに伴って新しい仕事もたくさん生まれます。これから社会が大きく変化しますが、人間でなければできない仕事とは何か、みなさんにはこの点をしっかり考えて学習してほしいと思います。



8 地域とのつながり

小中学生のみなさんと、地域とのつながりは、いろいろなところに見られます。これからも地域とのつながりが生涯にわたって続いていくように、地域のことを学んだり、地域のいろいろな方々と交流したりしていきたいです。

あいさつ運動

つながりの第一歩は、「あいさつ」です。平成23年から、町の学校活性化委員会が中心となり、「いつでも、だれとでも明るくあいさつを交わす池田の子」に育っていくよう、「あいさつ運動」が始まりました。各学校でも児童会や生徒会と共に取り組んできましたが、その輪が広がるよう、PTA や役場職員の方々にも呼びかけて取り組んでいます。子どもも大人も声をかけ合い、明るくあいさつを交わす池田町になるように、この取り組みを家庭や町全体に広げていきたいものです。

ふるさと学習の支援をしてくださる地域の先生方

生活科や総合的な学習の時間、国語や社会科、理科、家庭科の学習などで、ふるさと池田のことを学んだり、体験したりなどするために、地域の方々が先生となり、支援してくださっています。歴史学習・米作りの学習・自然観察・農業体験・クラブ活動や部活動支援・福祉施設との交流・職場体験・読み聞かせボランティアなど、みなさんの学びが深まっていますね。地域の先生方との交流も深められたらいいですね。



5年生の米作り学習

地域のために

地域のために小中学生が活躍していることがあります。小学校の合唱団や中学校の吹奏楽部のみなさんは、町の行事で演奏活動をし、行事を盛り上げてくれています。高瀬中学校の生徒会では、牛乳パックやアルミ缶回収をしたお金を、社会福祉協議会に寄付したり、小中学校共に募金活動に取り組んだりして、地域のために役立つ活動を続けています。中学校の図書委員会は、町の図書館行事のお手伝いや読み聞かせなどをしています。地区のゴミ拾いの活動は美しい町づくりのために役立っています。各地区で奉仕活動をしたり、地区行事に貢献したりしている小中学生もいます。

これからも、地域のために役立つ仕事をみんなで考え、地域を盛り上げ、つながりを広く深くして行ってほしいです。小中学生のみなさんのパワーを地域のために役立ててください。

放課後学習支援（水曜ステップアップ塾）

教科学習や家庭学習の支援を希望する人たちのため、平成25年から、毎週水曜日の放課後に、地域の方々に先生になっていただいて、各校で学習をしています。「わからないところがわかるようになった。」「学習の進め方が上手になった。」など、この機会を利用して主体的に学習を進め、ステップアップしている人が大勢います。

土曜ふるさとクラブ

池田町教育委員会では、子どもからお年寄りまで、生涯にわたって学習する機会を提供しようと、『新池田学問所』計画を毎年考え、小学生のみなさんには、「ふるさと学び塾」の中のPTA活動「土曜ふるさとクラブ」を支援しています。この活動は、主に土曜日の午前中に親子で集まって体験や交流を楽しむもので、地域の方々に先生になっていただいています。今まで、自然体験クラブ・将棋クラブ・子どもキッチンクラブ・パン作りクラブ・美術クラブ・町探検クラブ・布遊びクラブがありました。親子で楽しむだけでなく、先生との交流、池田小学校と会染小学校の子ども同士・親同士の交流など、体験を楽しみながら、交流の輪が広がっています。



自然体験クラブ

この他、生涯学習課では、「ふるさとチャレンジ塾」を企画し、小中学生の交流が深められるようにしています。大勢が参加し、交流の輪を広げて行ってください。

地区育成会行事・地区のお祭り

各地区には、子どもからお年寄りまで一緒になって営む行事がたくさんあります。その主なものは、神社祭典お囃子と浦安の舞・三九郎・市神様・子ども神輿・奉納相撲大会・鳥追い・餅つき・しめ縄作り・三世代交流・奉仕活動などです。それぞれの地区にはまだまだその地区特有の伝統行事があることでしょう。「地区の行事を見ればその地区の様子がわかる」と言われます。伝統が続いていくということは、地区のつながりがしっかりとしていることだと思います。近年、少子化にともなって地区の行事を続けていくのが難しくなっている問題があります。地区の行事には積極的に参加し、大勢の方と交流しながら、伝統を守り、末永く続けて行ってほしいです。

9 ^{きょうどう}協働のまちづくり

^{きょうどう}協働のまちづくりとは、地域の人たちが協力して、住みよいまちをつくることです。

池田町がもっと住みやすい町になるには、わたしたちは何をしたらいいのでしょうか。

豊かな郷土の自然を守ること、商店や会社、農業などが活気をもつことなど、いろいろ考えられますが、それだけではありません。地域の人たちが、お互いに助け合い、支え合い、協力し合って絆^{きずな}（はなれがたい結びつき）を深めていく社会、これを「ふれあい社会」といいますが、この「ふれあい社会」こそ、これからのわたしたちがめざす社会だといわれています。

2011年(平成23)3月の、「東日本大震災」では、被災^{しんさい}した多くの人たちが、互いに助け合い、支え合^{ひさ}って、苦難^{くなん}に立ち向かっている姿に、世界中の人たちが感動しました。

かつて、わたしたちの社会では、このような姿が多く見られたものでした。昭和30年代頃までは、地域の人たちが共同して、地域の環境^{かんきょう}をよくすることや、防災・安全などいろいろな課題^{かだい}に取り組んでいたばかりか、田植えも、稲刈りも、葬式^{そうしき}もお互いに手伝い合っていたのです。また、大人たちが地域の子どもたちの生活をあたたかく見守り^{みもり}、励まし、時には厳しく諭^{さと}すなど、地域共同体としての健全な役割^{けんぜん}を果た^{はた}していました。

ところが、近年の少子高齢化^{こうれい}や核家族化^{かく}、いろいろな考え方などにより、地域における支え合いの気持ちは薄^{うす}くなり、地域の教育力も低下して、社会^{じょうきょう}の状況が変化してきました。

そこで、社会の変化や、地域の人たちの考え方を取り入れながら、古き良き伝統^{でんとう}をどう再生するかが問われるようになりました。



世代をこえての取り組み(池田町区の祭りのようす)

いま、求められていることは、地域の「新しい支え合い」です。地域の人たちのいろいろな活動を、地域のさまざまな組織や個人が力を合わせて支え合うというものです。

これが「協働」のまちづくりです。協働のまちづくりには、人々が地域社会に積極的に参加することや、社会のためにつくす「社会貢献活動^{こうけん}」が欠かせません。

さいわい池田町には、趣味^{しゅみ}のサークルや地域おこしのサークルなど、町民による活動団体が200以上もあります。福祉活動^{ふくし}も盛ん^{さか}ですし、公民館による勉強会や体験学習会もあるなど、よい環境がつくられています。これらの場を活用し、考えを同じくする人たちが集まって、喜びや、悲しみを分かち合い、つながりを深めて、元気に生きることが、新しい地域社会の実現へと結びついていくのです。

10 男女共同参画社会をめざして

みなさんは、「男の子だから」「女の子だから」こうしなさい、「男のくせに」「女のくせに」と言われて、くやしかったり、悲しい思いをしたことはありませんか。

日本では戦後、憲法^{けんぽう}（国のもっとも大事なきまり）や民法^{みんぽう}（個人の権利や身分などのきまり）によって、男女平等^{びやうどう}が実現しました。それでも、「男は外で仕事、女は家で家事、育児^{いくじ}」といった昔ながらの考え方が残っていて、男女が平等にあつかわ

れることは、なかなかありませんでした。このような考え方は、日本ばかりではありません。世界の国ぐにの中にもたくさんありました。

1985年、国際連合^{こくさいれんごう}で、女の人を差別^{さべつ}するのはやめよう、という条約^{じょうやく}がつけられたのをきっかけとして、国際社会では、女性の人権^{じんけん}や地位^{ちい}の向上にむけて、取り組みをはじめました。

日本でも、国際社会の動きにあわせて、雇用面^{こよう}（雇うこと^{やと}）での男女平等をめざす法律を改正しました。つづいて、男女の立場を大切に考えた、「男女共同参画社会基本法^{さんかく}」（1999年、平成11）という法律もつくりました。こうして、男女の区別なく、個人として能力を生かすことができる、新しい社会づくりが進められるようになりました。

池田町では、このような国の取り組みを受けて、「池田町男女共同参画プラン」（2002年、平成14）をつくりました。3年後には「笑顔輝く池田町男女共同参画まちづくり条例^{えがお}」（2005年、平成17）をつくって、町の一人ひとりが、生き生きと暮すことができる池田町にしようと、取り組みをはじめたのです。

町のこの条例は、7つの基本的な考え方をとりあげて、わたしたちがこれから進むみちを示しています。それは、全ての町民が、「男女の人権を尊重すること」「性別で男女を差別しないこと」「家庭と仕事が両立できるよう男女が協力すること」「あらゆる分野に男女が共に参画し、住みよいまちづくりをすすめていくこと」などです。

男女共同参画社会をつくっていくことは、社会みんなの課題^{かだい}です。男性も女性も「わたし」を大切にしたい生き方ができ、互いに認め合える社会です。

それにはどうしたらいいでしょう。池田町では、さまざまな具体案^{ぐたいあん}をつくるために、今も検討^{けん}をつづけています。みなさんも、いっしょに考えてみませんか。



11 みんなの力で池田町の未来を育みましょう

池田町の目標は、赤ちゃんからお年寄りまで池田町に住んでいるすべての人が幸せな毎日を送ることです。その目標を実現するために町では5項目からなる町民憲章（町の基本的な方針をうたったもの）をつくりました。

人々を活かしてくれる緑と水、自然をこよなく愛する町にしましょう

池田町には、生命の源である美しい天然の水が北アルプス山麓の地下を

通って豊富に流れこんでいます。その豊かな水は生物の命を育むだけでなく、米作りなどの農業や酒造りや製糸、精密機械等の工業にも活用され池田町の発展に大きく貢献してきました。

東山の豊富な緑は私たちの心に潤いとやすらぎを与えてくれます。また四季折々に様々な表情を見せてくれる北アルプスの雄大な姿と田園の織りなす景色は、日本を代表する原風景でもあります。

人の命は百歳を超えることは稀ですが、森に育つ木々の寿命は何百年、何千年という強い生命力を持つものもあり、私たち人間の何世代も前からその場所で、私たちを見守り続けています。私たちは、そんな大自然に活かされながら日々生活を営んでいることに、感謝と敬意の気持ちを表したいものです。

自らも学び、個性を伸ばし創造を育む町にしましょう

今から200数十年前（1788年江戸時代）に松本から杉山巢雲先生を師に迎えてつくられた池田学問所が池田町の教育の始まりとされています。池田学問所では「地域の子どもは地域で育てる」という考えのもとに、貧富の差も男女の区別もなく、すべての子どもたちが平等に学ぶことができました。巢雲先生の教えは、心を豊かにする精神に満ちあふれており、この教えは池田町の教育の原点として、今でも大切にされています。

みなさん一人ひとりにはみな平等に無限の可能性と才能をもっています。まずは自分を信じて、いろいろな分野に挑戦してみましょう。その思いの強さが才能を見つける近道です。ナ

池田町民憲章

私たちの池田町は、北アルプスを一望できる山紫水明の地です。その地に、池田学問所など古来多くの人びとの英知によって拓かれた歴史があります。この風土に学び自分たちの住む町を自分たちの手で、いつそう心豊かな町にするため、ここに町民憲章を制定します。

- 一人ひとりを活かしてくれる緑と水、自然をこよなく愛する町にしましょう。
- 自らも学び、個性を伸ばし創造を育む町にしましょう。
- 働くことに喜びをもち、産業をひらき活力ある町にしましょう。
- 自分を大切にするように、他人をも大切にする思いやりのある町にしましょう。
- あいさつをかわし楽しく話しあえる、明るい町にしましょう。



ナンバーワンではなく、自分にとってのオンリーワンを探しましょう。

「みがけただ みがけば光る 玉ほこの 道の中なる 道を尋ねて」(巢雲)

働くことに喜びをもち、産業をひらき活力ある町にしましょう

家のお手伝いや学校で掃除をする時、何のために、誰のためにやっているかを考えてみましょう。きれいになることで、自分の気持ちがさわやかになり、周りの人が喜んでくれる。それが「働く」ということです。

小さいころのお手伝いの経験は、将来自分が職業を決める時に役立つことがあります。与えられた仕事をしっかりとやり遂げて、達成する喜びを味わいましょう。

池田町は昔から農業や商業、工業が活発でした。これからも「美しいまちづくり」を進めるために、自然景観を大切にしながら、農商工の調和のとれた住みやすい町となるよう、町の人すべてが力を合わせて元気よく取り組むことが大切です。

自分を大切にするように、他人をも大切に思いやりのある町にしましょう

2011年(平成23)3月11日に起きた東日本大震災では、苦しさの中で多くの人たちが互いに励ましあい、思いやる気持ちを持ちながら、見事な復興を図ってきました。

「一人の命は地球より重い」という言葉があります。人は家族や友人そして地球に存在するすべての生物に支えられて暮らしています。このことに感謝の気持ちをこめて、多くの尊い命と仲良く暮らすことが大切です。

自分の良いところを探し、自信が持てると、人の素晴らしさも見えてきます。それを言葉にして相手に伝えてあげましょう。他人を大切にすることは相手に敬意をはらう(相手に対する尊敬の気持ちなどを、話し方や行動などで表現すること)ということです。そのためには自分の心の中に、お金や物ではない、「真の心の豊かさ」とは何かを学ぶことが大切です。



あいさつをかわし楽しく話し合える、 明るい町にしましょう

早寝早起きをして、十分な睡眠^{すいみん}をとると朝起きた時、体中からエネルギーがほとばしり、自然と気持ちの良いあいさつができます。

あいさつは人と人の心をつなぐための道具^{どうぐ}です。みなさんも家族や友達からあいさつをされると何となく気持ちが明るくなることはありませんか。心のこもったあいさつは、相

手の気持ち^{なご}を和ませてくれます。そしてあいさつは、楽しい会話を弾^はませるための大切な第一歩です。相手を思いやる気持ちを持ち、心をこめて、大きな声であいさつをしましょう。

今池田町では町ぐるみのあいさつ運動を進めています。元気よくあいさつを交^かわして町じゅうの人たちと仲良くなりましょう。

池田町の主人公はみなさん子どもたちです。皆さんが心身^{しんしん}ともに健康で元気であることが町の願いでもあります。池田町の10年後、20年後の未来は、みなさんがこれから多くのことを学んで、創^{つく}り上げていくことになります。そのためにはまず池田町のことを知ることが大切です。池田町の素晴らしいところを家族や学校、地域の人から学びましょう。そしてそのことを自分の足で確かめ、体の五感^{ごかん}すべてで感じてください。

町では、みなさんが将来、大きな夢を抱きながら、胸を張ってふるさと池田を語れる大人になることを期待しています。



おわりに

みなさんは、池田町のことについてどれくらい知っていましたか。本書『池田ものがたり』を読み、池田町の「美しさ」や「すばらしさ」が見つけれられましたか。家族や友達、地域の方々などと、池田町のことについて語り合いましたか。『池田ものがたり』をもとに、実際に実物を見学したり、体験したり、友達や地域の方々とふれあったりして、もっともっと池田町の「美しさ」や「すばらしさ」を見つけてください。

町では、旧池田町図書館後に、『池田町文化財展示館』を整備しました。町の歴史などを見学し調べることができますので訪れてみましょう。もっとくわしく調べたい人は、下記を参考にしてください。

☒ 池田町ホームページより

- ◇ 町の情報など【池田町の概要・統計資料・町勢要覧・池田の魅力・広報いけだ・池田町ハザードマップ など】
- ◇ 池田町の魅力【自然・観光・イベント・歴史・文化 等】
- ◇ 池田町観光情報サイト（池田町観光協会）

☒ 文献（池田町図書館所蔵）

- ◇ 池田町誌【自然編（昭和63）・歴史編（平成2・平成4）】
- ◇ 信濃池田町史話（昭和39）・続信濃池田町史話（昭和51）・池田町歳事記（昭和55）
- ◇ 写真が語る池田町誌（昭和60）
- ◇ 池田学問所小伝（昭和63）
- ◇ 池田町石造文化財（昭和61）・池田町の遺跡（平成6）・池田町の文化財（平成14）
- ◇ 池田町の神様・仏様（平成15）・池田町の寺堂と仏像（平成17）
- ◇ あづみ野 池田の民話（平成3）
- ◇ 浅原六朗選集（平成5）・てるてる坊主の歌（平成17）・他

自然は、広く地球環境と共に変化し続けています。池田町の美しく豊かな自然を守っていきたいです。文化財や歴史遺産は、先人の残してくれたメッセージとして、忘れ去られることなく守っていきたいです。そして、社会のしくみは、変わり続けていますので、町じゅうすべての人が安心して住みよい社会になるようなしくみを創り出していかなければなりません。

池田町の未来の担い手であるみなさんに期待しています。

最後に、『池田ものがたり』をつくるためにご尽力いただきました関係者のみなさま、電算印刷の矢口千登世様に、厚く御礼申し上げます。

令和2年3月 池田町教育委員会

執筆委員

自然 田中宏一郎 宮澤 洋介 小林 正芳
歴史 中山 俊夫 千賀 絵里 小澤 洋治 丸山 史子
現代 中山 彰博 矢口 洋子 竹村 修 中沢 俊晴 井口 隆夫 平林 康男
さし絵 上原ゆう子 中村 香

監修 井口 博文
事務局 塩川亜弥子 林 信夫

第2版

監修 井口 博文
編集 丸山 高德
事務局 山岸 寛 丸山 高德

第3版

監修 井口 博文
編集 宮澤 洋介 丸山 高德
事務局 渡辺 龍 丸山 高德

池田ものがたり

発行日	第1版	平成24年2月22日
	第2版	平成31年3月31日
	第3版	令和2年3月31日

編集	「池田ものがたり」編集委員会
発行	池田町教育委員会

印刷 電算印刷株式会社

池田町歴史年表

縄文時代	およそ八千年前	池田町東部段丘上（堀之内く滝沢、平出、中之郷）に人が住む
弥生時代	紀元初め頃	中之郷の地で稲作を始める
古墳時代	二く三世紀頃	堀之内、中島、中之郷、平出などに集落ができる
六四五	六世紀末頃	堀之内に「鬼の釜古墳」が築造される
七六四	天平宝字八	大化の改新　大化の年号をさだめる
平安中期		安曇郡前科の安曇部真羊、調布一反を信濃国府へ納める
九二七	延長五	梶の尾の毘沙門天がつくられる
平安末頃		延喜式に川会神社が掲載される
一四四四	文安元	中島に瓦をやく窯ができ、布目瓦が焼かれる
一四八三	文明一五	この頃、中島城主池田十郎藤重により水利を治めて池田を拓くと伝えられる
一五一九	文永一五	池田・庄科両郷は、穂高神社の式年造営に従い、他郷と協力して穂高神社の大宮をつくる
一五四四	天文一三	仁科盛政池田に浄念寺を建つ
一五七七	天文一五	武田信玄晴信信濃を攻めて統治する
一五九七	慶長二	仁科盛信池田林泉寺を遍昭光院に寄進する
一六一九	元和五	生坂へたばこ栽培伝わる（この地方のたばこ栽培の始まり）
一六二九	寛永六	松本藩主戸田康長、池田の地に若松城の構築はじめる
一六四一	“一八	戸田康長、世子忠光の死により若松城の構築を中止する
一六四八	慶安元	郡奉行岡江惣右衛門、岡堰を完成させる
一六五一	“四	新堰が完成する。正科・堀之内・中島などを灌漑
一六九六	元禄九	慶安検地がおこなわれる
一七二五	享保一〇	豪雨で高瀬川洪水を起こす。内鎌村が大水害をおこす
一七四三	寛保三	中島にやまくずれが起こり、家六戸おしつぶされる
一七六七	天明四	池田町大火　一三〇戸焼失
一七八六	天明六	相道寺焼の許可申請をだす
一七八八	“八	歌人内山真弓、十日市場に生まれる　一八五二（嘉永五）死去
一八〇四	享和四	池田学問所が創設され、松本の人　杉山巢雲が初代師匠となる
一八二〇	文政三	池田町大火　焼失五〇戸
一八五三	嘉永六	巢雲教育の基となる『しほり草』書かれる
一八五六	安政三	内山真弓歌碑（十日市場川会神社）
一八六八	明治元	池田町村に大火が起こり、一三九棟の家屋が焼ける。
一八七七	“一〇	その後類焼を防ぐ「火屋塙」が作られるようになる
一八八〇	“一三	明治維新により、新しい国家が生まれる
一八八一	“一四	歌人　岡麓　東京湯島に生まれる。一九五一（昭和二六）池田で没す
一八八三	“一六	池田に初めて製糸工場ができる　上原・丸山製糸創立
一八八九	“二二	啓蒙誌『幽谷雜誌』が池田町嚶々社より発行される
一八九三	“二六	廃仏棄釈のあと、浄念寺が再興される
一八九四	“二七	高瀬川大洪水、内鎌を中心に被害がひろまる
一八九五	“二八	池田警察分署新築落成
一九〇〇	“三三	俳人荻原井泉水東京芝に生まれる
一九〇二	“三五	文学者浅原六朗池田に生まれる　一九七七（昭和五二）没す
一九〇八	“四一	七貴尋常小学校二階建新築
一九一五	大正四	会染小学校落成
一九一六	“五	池田小学校現位置に新築落成
一九一七	“六	池田町制施行　池田町となる
一九二一	“一〇	松本く大町間の信濃鉄道が開通する
“	“一〇	池田・松川橋完成
一九二六	昭和元	池田実業補習学校（池工の前身）を創立する
一九三〇	“五	浅原六朗「てるてる坊主」の詩歌を発表する
一九四七	“二二	安曇追分く北池田間の池田鉄道が開通する　一九三八（昭和一三）廃止
一九四九	“二四	池田町水道完成する
一九五〇	“二五	六・三・三制による小中高校発足
一九五一	昭和二六	北安曇農業高等学校と改称する（一九六三（昭和三八）池田工業高等学校になる）
		安曇病院落成開業する
		岡麓歌碑（会染八幡宮）

		一九五三	“二八	池田町・会染村組合立高瀬中学校が開校する。
		“	“	島木赤彦歌碑（池田八幡神社）
		一九五五	“三〇	池田町・会染村が合併し、人口九三〇〇人の池田町が誕生する
		一九五七	“三二	陸郷中央部・広津西部・中之郷・鶴山が池田町に合併する
		一九六一	“三六	広津保育所開所する
		一九六二	“三七	会染保育所開所（園児六五名）
		一九六三	“三八	池田保育所開所する
		“	“四〇	池田町・松川村学校給食センター　給食調理を開始する
		一九六五	“四〇	池田町町章制定
		“	“四一	戦没者慰霊塔および平和人間像が八幡神社境内に建てられる
		一九七〇	“四五	荻原井泉水句碑（中島）
		“	“	広津中学閉校、高瀬中と合併
		一九七二	“四七	広津小学校閉校する
		一九七四	“四九	池田町役場庁舎竣工する
		一九七八	“五三	池田南保育園竣工する
		“	“	池田町総合体育館竣工する
		一九八〇	“五五	会染保育園移転竣工する
		“	“	内鎌に岡麓の草庵が復元される。同歌碑
		一九八二	“五七	てるてる坊主の館・池田町図書館が竣工する
		“	“	浅原六朗文学記念館が竣工する
		一九八三	“五八	俳句坂（相道寺く登波離橋間）に句碑五〇基が建てられる
		一九八四	“五九	中山竹通選手が福岡国際マラソンで優勝する
		一九八五	“六〇	高瀬中学校全面改築竣工する
		“	“	第一回ふるさと祭りを開催する
		“	“	第一回全国池田町サミットが香川県池田町で開かれる
		一九八六	“六一	広津保育園閉園する
		一九八七	“六二	圃場整備事業池田地区整地工事が完了する
		一九八八	“六三	県立安曇養護学校開校する
		“	“	第四回池田サミットを当町で開催（一一回・一八回も）
		“	“	ソウルオリンピック男子マラソンに中山竹通選手出場。四位入賞、名誉町民第一号に顕彰（バルセロナオリンピックにも出場四位）
		一九八九	“	池田学問所二〇〇年祭で、杉山巢雲銅像除幕式
		平成元		第一回あづみ野池田ハーフマラソン開催（二一回まで）
		一九九〇	“二	池田小学校・会染小学校竣工
		一九九三	“五	横浜市磯子区岡村西部連合自治会との交流が始まる
		一九九四	“六	池田町立美術館が開館する
		一九九五	“七	池田町ハーブセンターを竣工する
		一九九九	“一一	クラフトパーク・創造館が開館する
		二〇〇〇	“一二	やすらぎの郷がサービス提供を開始する
		二〇〇六	“一八	上原良司記念碑が創造館東に建てられる
		二〇〇八	“二〇	池田小学校と岡村小学校、会染小学校と藤の木小学校との交流が始まる
		“	“	北安曇郡歌碑がクラフトパーク内に建てられる（一五周年記念）
		二〇〇九	“二一	池田町立美術館の愛称が『北アルプス展望美術館』に決定
		二〇一二	“二四	高瀬中学校開校六〇周年記念行事開催
		二〇一三	“二五	池田松川学校給食センターが松川中学校に新築移転
		“	“	池田町防災ヘリポート完成
		“	“	池田保育園新築
		二〇一四	“二六	記録的大雪（ハセセンチメートル）
		“	“	池田ふるさと祭り『池田あっぱれ』三〇周年
		二〇一五	“二七	神城断層地震発生、池田は震度四
		“	“	池田町町制施行一〇〇周年・合併六〇周年
		“	“	高瀬中学校、てるてる坊主ギネス世界記録認定（一一、七四四体）
		二〇一八	“三〇	横浜磯子区との交流提携二五周年記念式典開催
		二〇一九	令和元	日本アルプス国際学院開校
				交流センター「かえで」完成

氏 名	
--------	--